

本邦顯著地震表

(乃大正元年(明治四十
五年)至大正十四年迄)

本表は主に氣象要覽及氣象月年報等に掲載せられたる地震を一括し其發現時間の順序によりて配列表示せるものなり、而して表中の顯著地震とは其有感覺震域面積の廣汎に亘るものにして、稍や顯著地震とは有感覺區域の之れより稍狭きものなり而て本表掲載以外の地震は小區域又は小局部に於てのみ感覺ありしもののみにして勢力の弱きものなり。遠地々震又は無感覺地震も其著明なるものは表出せり。地震の震度及び被害につきては其の概要を記事欄に記せり。

本邦附近の海中にては常に多くの地震を頻發し茲に掲出する以外にも本邦各地に於ては無感覺地震なりと雖も其實際の勢力に至りては相當大なるものあるべく隨つて其の地震全回數は更に少しく其數を増すべし。附圖は震央(餘震を省く)の概位置を示し海深線は地質調査所地圖より模寫せるものにして併て本邦附近の地震活動に關する考究の資に供す。

尙本表は中央氣象臺地震掛技手石川高見氏の編纂に係るものなり。

月	日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記事
明治四十五年	一月四日	時四十分	顯著	十勝沖	一四四・三八	震域は廣くして北海道全部より南は八丈島、西方は長野に及べり、就中日高・十勝・釧路地方は強く帶廣、本別にては棚上のもは墜落せり。
	六日	十一時九分	稍顯著	由良海峽	一三五・〇三四・一	震央地方にて弱震なり
	七日	二十三時十七分	顯著	佐渡姫崎沖	一三八・六一三八・六	弱震
	七日	二十三時二十六分	顯著	日向灘	一三一・八三二・四	震央附近にて弱震なり
	九日	四時六分	顯著	武藏南部	一三九・六三三・二	震央附近弱震
	九日	六時二十一分	顯著	陸前南部	一四〇・八一三九・一	震域は北海道渡島國より西方は伊勢灣、富山灣に達す、強震部は磐城・岩城・陸前南部及羽前南部に亘り震央地方の阿武隈川流域にては振子時計止まれり。
	十四日	十四時四十一分	稍顯著	淺間山附近	一三八・四三三・六	爆發に伴へる地震なり
	十六日	二十時二十八分	顯著	天草灘	一三〇・七三二・七	震央附近強震なり、震域九州ミ長門に亘れり
	二十一日	十時三十分	顯著	日向南部沖	一三一・〇三二・〇	震央にて弱震なり
	二十一日	十八時九分	顯著	備後灘	一三三・二三四・二	震央附近にて弱震を感じ
	二十六日	十六時二十八分	顯著	東京灣附近	一三九・七一三五・五	強震部は東京灣沿岸地方なり、被害なし

二十七日十七時二十九分	稍顯著	下總國木下附近	一三九・九 三五・八	震央附近にては弱震を感じ
二十八日十七時二十九分	〃	銚子沖	一四〇・四 三五・七	銚子弱震なり
二月一日二十二時八分	〃	霞ヶ浦附近	一四〇・二 三六・一	震央附近弱震なり
八日五時二十四分	〃	石見沖	一三二・〇 三五・〇	
十二日七時二十七分	顯著	富山灣	一三七・二 三七・一	強震部は能登南部と越中沿岸なり
十二日十六時二十七分	稍顯著	〃	一三七・二 三七・一	右上の餘震
十七日一時四十八分	顯著	常陸北部ノ沖	一四一・二 三七・〇	強震部は常陸沿岸地方にて液體の溢出ありたり被害なし
十七日十一時四十三分	稍顯著	〃	一四一・二 三七・〇	
十九日十三時四分	〃	釧路沖	一四四・五 四一・九	
二十二日十二時四十八分	〃	美濃北西部	一三六・六 三五・五	震央附近にて弱震なり
二十三日十四時二十一分	〃	〃	一三六・六 三五・五	震央附近にて弱震なり
三月十日七時七分	〃	下總北西部	一四〇・七 三五・七	震央附近にて弱震なり
十一日十五時二十四分	〃	磐城灘	一四一・八 三七・七	
十四日十二時二十四分	〃	安房沖	一四〇・四 三五・〇	
二十二日五時三十三分	〃	津輕海峡	一四一・三 四一・五	

明治四十五年
三月三十日

時三十一分

稍顯著

臺東沖

一二二・〇
一二二・三

臺灣全島に亘れり

四月八日

二十時三十一分

〃

安房沖

一四〇・五
三五・一

九日二十時三十七分

〃

安藝沖

一三三・三
三四・二

十八日十六時三十七分

顯著
多少被害

陸前沖

一四二・三
三八・六

震域沼津より北方は青森に達し強震部は陸前の北東部と陸中の一部份をなす處あり

十八日二十三時三十七分

稍顯著

三河中部

一三七・二
三五・〇

三十日四時五分

〃

相模灘

一三九・二
三五・〇

相模灣附近弱震なり

五月二日十二時五十四分

〃

鹿島灘

一四一・〇
三六・一

六日八時五十八分

〃

美濃國金山附近

一三七・二
三五・六

震央附近弱震なり

十日十六時四十七分

〃

鹿島灘

一四一・一
三六・二

二十日一時二十四分

〃

陸前北西部

一四〇・六
三八・七

震央附近弱震なり

二十日十六時五十四分

〃

小笠原島北北西沖合

一四二・〇
二九・〇

震域廣く北は福島・新潟、西方は奄美大島に亘り、父島にては弱震なり

二十六日九時三十三分

〃

甲斐東部

一三八・三
三五・七

二十六日十九時十二分

〃

〃

一三八・三
三五・七

二十八日六時四十八分

〃

陸前北西部

一四〇・七
三八・八

震央附近弱震なり

三十一日	〇時三十分	顯著	安房近海	一四〇・一 三四・九
三十一日	二十一時三十分	稍顯著	浦賀海峡	一三九・八 三五・三
六月一日	二十二時二十六分	〃	鹿島灘	一四一・〇 三六・一
八日	十三時四十二分	顯著 (多被被害)	陸中沖	一四三・三 三九・三
八日	十六時五十九分	稍顯著	下總北部	一三九・八 三六・二
十二日	十九時十六分	〃	陸前沖	一四二・七 三七・六
十九日	十五時五十七分	〃	根室沖	一四五・九 四三・一
二十四日	十七時三十七分	〃	美濃國土岐郡	一三七・一 三五・三
二十九日	三時三分	〃	磐城沖	一四一・六 三七・五
七月五日	八時三十分	〃	越中國東礪波郡	一三七・〇 三六・七
八日	十九時二十一分	〃	花蓮港沖	一二一・七 二三・八
九日	九時三十五分	〃	丹波國龜岡附近	一三五・五 三五・二

横濱・横須賀・東京は強震なり、
震域は西方は丹後宮津・大阪より、
北は青森、南は八丈島に及べり、
格別の被害なし

横須賀附近弱震なり

震域西方は宮津、北方は北海道南
部南は八丈島に達し強震區域は陸
中及陸前北東部に、陸奥東海岸に
て陸奥上北郡七戸燈臺にては土藏壁
の龜裂あり尻矢崎燈臺にては器械
中の水銀溢出等ありたり、
震度石巻強震、宮古及函館は強震
(弱き方)なり

明治四十五年

七月十三日二十三時三十一分

顯著 上總沖 一四〇・八
三五・三

十六日七時四十六分

淺間山附近 一三八・五
三六・五

二十五日八時二十四分

八丈島南南西沖 一三八・五
三一・五

二十八日十六時十一分

甲斐東部 一三八・五
三五・八

大正元年

八月二日三時四分

上總遠洋 一四五・〇
三三・〇

二日九時四十三分

下總北部 一三九・八
三六・二

三日二時十九分

奄美大島沖 一三一・〇
二八・五

六日十時二十分

下總北部 一三九・八
三六・二

九日十七時四十八分

陸中沖 一四二・五
三九・五

十七日二十三時二十二分

顯著(多少被害) 信州上田附近 一三八・四
三六・三

十八日十七時四十六分

磐城灘 一四一・五
三七・五

十九日六時三十分

顯著 臺灣東海岸 一二二・五
二四・〇

二十一日十三時三十四分

顯著 釧路東方沖 一四四・五
四二・五

九十九里ヶ濱沿岸一帯強震區域に於て上總の茂原・八幡等には振子時計止まる。淺間山麓なる輕井澤・小諸・上田等にては人々戶外に飛び出せり。

震央附近の上田町は地盤の龜裂三ヶ所あり、石垣の崩れたるもの六ヶ所あり、強震區域は信濃の小縣郡に北佐久・埴科・上高井郡の一部なり。

九		月		四	
二十一日	十四時五十分	稍顯著	岩代北東部	一四〇・五	震域は西は宮津、北は函館、南は伊豆に亘れり
二十二日	一時二十九分	顯著	豊豫海峽	一三三・〇	強震部は伊豫と豊後の一部なり
二十二日	十二時三十六分	稍顯著	信濃上田町附近	一三八・四	十七日の餘震なり
二十二日	二十二時一分	顯著	下總北部	一三九・八	震域西方は宮津、北方は秋田、南は伊豆島嶼に達したり
二十三日	十四時四十二分	稍顯著	磐城灘	一四一・五	
二十八日	一時四十二分	〃	陸中中部	一四一・五	
九月四日	一時五分	〃	釧路南方沖	一四四・五	
八日	二十二時二十四分	〃	日向小林町附近	一三一・〇	
二十日	二十時四十一分	〃	日高沖	一四二・五	
二十日	二十一時五分	〃	長門六連島附近	一三〇・七	
二十日	二十三時三十九分	〃	信濃上田町附近	一三八・四	
三十一日	十一時四十二分	〃	信濃大町附近	一三七・八	
二十二日	二十一時二十九分	〃	丹後福知山附近	一三五・三	
二十九日	二時二十九分	顯著	紀淡海峽	一三五・〇	
三十日	二十一時三十四分	稍顯著	上總沖	一四〇・七	震域北東は金澤・甲府、南西は大分に亘れり

八月十七日地震の餘震なり

震域北東は金澤・甲府、南西は大分に亘れり

十二月三	日十九時三十分	稍顯著	陸前沖	一四二〇・五
五	日二時三十二分	〃	上總沖	一四〇・七
五	日十九時三十八分	〃	東京灣東岸	一四〇・五
九	日八時五十分	〃	陸前沖	一四三・〇
十一	日十五時三十一分	〃	信濃飯山町附近	一三八・五
十三	日十四時十三分	〃	根室南方沖	一四五・五
十五	日二十三時五十八分	〃	奄美大島沖	一三〇・一
十八	日十時十九分	〃	下野南部	一三九・七
十九	日十九時二十四分	〃	大和南部	一三五・八
二十五	日三時七分	顯多 少被害	花蓮港沖	一二一・八
三十	日八時十三分	稍顯著	富山灣	一三七・二
三十	日十二時五十分	〃	下野南部	一三九・八
三十一	日二十三時三十分	〃	房總沖	一四〇・五

花蓮港にては粗造の建物に多少の被害あり

月	日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記 事
大正二年 一月二日	九日	時〇分	稍顯著	陸奥沖	一四一・七五	
	六日	時十八分	〃	鹿兒島縣	一三〇・〇〇	
	六日	時十五分	〃	美濃町附	一三七・三三	
	七日	時十五分	〃	山後灘	一三五・三三	
	七日	時十五分	〃	備後灘	一三四・四四	
	八日	時五十一分	〃	花蓮港	一二一・七八	
	九日	時五十五分	〃	〃	一二一・七八	
	九日	時十五分	〃	奄美大島沖	一三〇・五五	
	十日	時三十五分	顯著	花蓮港沖	一二一・八五	
	十三日	時二十七分	稍顯著	石卷灣	一四一・〇〇	
	十七日	時五十三分	〃	大和國南部	一三六・〇〇	
	二十日	時五十一分	顯著	擇捉島東方沖	一五〇・〇〇	
	二十一日	時二十一分	稍顯著	日高沖	一四二・五〇	
	二十二日	時五十分	〃	磐城國白石附近	一四〇・二〇	

紗那にては弱震にして震域は北海
道釧路・根室の沿岸地方迄に亘れ
り

三月二日	三月三日	三月十日	二月二十七日	二月二十八日	二月二十九日	二月三十日	二月三十一日
十四時十一分	十五時三十分	十四時四十一分	二十時二分	二十時二分	十九時二十七分	十九時七分	十八時二十一分
顯著	稍顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著
上總沖	霞ヶ浦附近	安房沖	山町附	浦賀水道	信濃諏訪附近	甲斐東部	美濃國高近
一四一〇〇	一四〇〇五	三四〇五〇	一三五九三	一三五九三	一三八〇〇	一三五八八	一三七三三

顯少被害

震城は廣瀨にして西は信濃南は八丈島は北方に北見中部に巨勝郡の陸奥・渡島・十勝・浦帯廣に於ては盤の上に龜裂あり、震源海中にありは地上の物墜落し、震源海中にありは故地震なり、害少なれども勢力大なる地震なり、

震城は北東大島附近の諸島に達し南方は奄美大島附近の日向・大隅・薩摩等に在りては強震を感じり、

大正二年	三月十四日十七時五十一分	顯著	南洋	一三〇・七
	二十四日五時五十一分	〃	南洋	一三〇・〇
	二十八日十八時五十七分	稍顯著	磐城灘	一四一・〇
	三十日十三時十分	顯著	紀伊北牟婁郡	一三六・五 一三六・三 一三四・三
四月三日	八日八時五十四分	〃	日向洋	一三一・五 一三二・五
	十日十時二十八分	〃	〃	一三一・五 一三二・五
	六日九時十七分	稍顯著	甲斐北部	一三九・〇 一三五・五
	十三日十五時四十分	〃	日向洋	一三二・〇 一三二・〇
	二十日二十三時五十三分	〃	〃	一三二・〇 一三二・〇
	三十日五時十四分	〃	磐城洋	一四二・〇 一三六・五
五月四日	十五日十五時四十分	〃	北上川下流域	一四一・三 一三八・六
	十四日十七時五十分	〃	武藏中部	一三九・五 一三六・二

震央はフキリツピン群島北東海に於ては本邦にては臺南・那覇・沼津に感じ微動計には全國にて觀測せられたり

本邦微動計に感ぜり、

震域は狭小にして強震部は極めて少なく且つ弱震部も南北に細長く擴かへり、此地震の前震を見做すべし十三日二十時四十分及二十日八日七時五十分頃二回の微震ありたり、

宮崎にて強震、熊本・大分・高知は弱震なり、

三日のものより強く熊本・宮崎・鹿児島にて強震なり、大分・廣島にては弱震なり、

十四日二十三時三十分	稍顯著	武藏中部	一三九・五 三六・二
十八日十一時十四分	顯著	南洋フキ ッビン附近	一四一・〇 三六・〇
二十二日五時三十六分	多被著害	鹿島灘南部	一三一・三 三三・八
二十六日十六時十六分	稍顯著	周防灘西部	一三九・五 三五・一
二十八日七時五十七分	〃	相模灣	一四一・〇 三六・〇
二十九日十九時十二分	顯著	鹿島洋南部	
自十七日 至三十日	稍顯著	霧島山々麓小 區域地震頻發	
六月九日二時二十三分	稍顯著	安房沖	一四〇・三 三五・〇
二十六日二時十七分	〃	磐城南	一四〇・五 三七・三
二十九日十七時二十三分	顯著	鹿兒島灣附近	一三〇・五 三一・七
三十日十六時八分	多被著害	鹿兒島灣附近	一三〇・五 三一・七

本邦大半の地震計に感ぜり

強震部は上總國にして佐倉附近は
柳上のもの落し藍瓶の龜裂陶器店
等の損害あり

二十二日の地震と其震動模様相似
にして東京にては最初上下動著
し、震域は前者よりも稍廣し、被害
なし。鹿兒島縣下始良郡吉松附近及宮崎
縣下西諸縣郡小林。加久藤。眞幸
の附近は十七日頃より三十日頃迄
頻繁に微弱震を感ぜり、振動旺
人なりしは二十、三にして日頃
大小十數回に及び二十五日頃より
減少せり、地震の模様は巨巖の地
上に墜落せし如く皆雷鳴の如き地
鳴を伴へり、

日置郡市來村港町にては斷崖崩落
し厩舎一棟倒れたり、
鹿兒島市にては振子時計止まり壁
の崩壊せしもの一箇所あり磁器商
硝子商に損害あり、日置郡永谷村
には土砂崩落し家屋一棟倒れ壁の
龜裂尠からず、同郡西市來村大里

大正二年				
六月三十日	十六時四十五分	稍顯著	鹿兒島灣附近	一三〇・五
七月一日	二十二時二十一分	〃	鹿兒島縣伊集院	一三〇・五
九日	時四十四分	〃	臺灣東海岸	一二一・四
九日	時二十一分	〃	霧島山麓	一三一・〇〇
九日	十三時八分	〃	鹿島灘	一四一・〇〇
十五日	十七時二十一分	〃	膽振灣東方沖	一四二・〇〇
八月一日	七時六分	顯著	日高國西方沖	一四二・五
四日	時二十三分	稍顯著	猪苗代湖の南部	一四〇・五
十四日	十一時	〃	遠江國周知郡	一三八・〇〇
十九日	九時四十七分	〃	浦賀水道	一三九・六
二十八日	十三時五十八分	〃	陸中々部	一四一・〇
九月三日	四時二分	〃	日向洋東方	一三二・五
五日	二十二時二十四分	稍顯著	鹿島洋	一四一・〇〇

にては厩舎一棟倒れ女二人傷つけ
り
餘震

此外此の附近にては七月中に微震
十回現れたり

七月中に於て霧島山麓には地震頻
發し、その數三十六回に及べり

十二月六日十六時九分	十日一時五十四分	九日五時五十四分	八日一時三十五分	二日十六時五十一分	一日九時四十四分	十一月一日八時三十一分	二十一日十二時六分	十六日九時十七分	十三日二時五分	十一日十八時十分	十月三日九時十七分	九日七時三十分	七日一時三十八分
//	//	//	//	//	//	稍顯著	顯著	//	稍顯著	顯著	//	稍顯著	顯著
襟裳岬沖	膽振灣	鹿島洋	備中南部	八丈島東方沖	日向洋東方	臺灣中部	備後灘	浦賀水道	//	//	陸中東方沖	上總沖	安藝海南西方
一四四〇〇	一四二〇〇	一四一〇〇	一三三〇〇	一四一〇〇	一三二〇〇	一二四〇〇	一三三〇〇	一三九〇〇	一四二〇〇	一四二〇〇	一四二〇〇	一四〇〇〇	一三二〇〇

格別に被害なし

大正二年 十二月八日		發震時分	震度	震央地名	東經 北緯	記事
日十五時五十五分	稍顯著	陸奥東方沖	一四三〇〇			<p>房總半島より武相地方に稍や強き震動を起し、横須賀にては古き家屋の壁面に龜裂を生ぜるものあり、三あり、其他には格別の被害なし、</p>
十三日十七時十五分	〃	鹿島灘	一四二〇〇			
十五日十一時二分	顯多被害	東京灣南郡	一四〇五〇			
二十日十六時十一分	稍顯著	霞ヶ浦附近	一四〇〇〇			
二十二日十時三十分	〃	襟裳岬沖	一四四〇〇			
二十六日十九時四十六分	〃	鹿島灘	一四一〇〇			
二十九日十八時五十分	〃	根室沖	一四六〇五			

大正三年 一月二日		發震時分	震度	震央地名	東經 北緯	記事
日十二時五十分	顯著	陸奥中沖	一四二〇〇			
六日六時三十分	稍顯著	〃	一四二〇〇			
八日十九時五十四分	〃	房總沖	一四一〇〇			
十二日十八時十二分	〃	備後灘	一三三二二			

二十一日七	時五十分	稍顯著	金華山沖	一四一・三
二十三日四	時二十一分	〃	琵琶湖東岸	一三六・二
二十八日二	時五十分	〃	秋田縣下	一四〇・一
四月十九日二	時二十七分	顯著	相模	一三九・四
五月十一日一	時十七分	稍顯著	膽振灣南方沖	一四二・〇
二十一日〇	時十三分	〃	浦賀水道	一三九・八
二十三日十二	時三十八分	顯著	備後附近	一三三・四
三十一日十一	時五十五分	稍顯著	膽振灣南方沖	一四二・五
三十一日十八	時五分	〃	金華山沖	一四一・七
六月八日二十	時十八分	〃	上總沖	一四〇・八
九日二十	時五十六分	〃	浦賀水道	一三九・八
十三日八	時十五分	〃	銚子沖	一四一・二
二十日六	時四十八分	〃	相模灣	一三九・六
二十三日十一	時五十分	顯著	磐城沖	一四一・六
二十四日九	時二十八分	稍顯著	和歌山縣郡	一三五・九

十五日の餘震

小名濱附近にては強震なれども被害なし

大正三年		七月二日		八月四日		九月四日		九月七日		九月十日		九月十二日		九月十四日		九月十七日		九月十七日	
時十八分	稍顯著	時四十八分	〃	時四十七分	〃	時四十二分	稍顯著	時三十分	〃	時二十三分	顯著	時五十三分	〃	時十四分	稍顯著	時三十分	〃	時三十四分	〃
襟裳岬東方沖	一四四・四	奄美大島南	一二九・三	鹿島洋	一四〇・九	羽後大曲附近	一四〇・四	磐城白河附近	一四〇・三	岩城附近	一四〇・三	須賀川附近	一四〇・〇	備後洋	一三三・五	磐城國安達郡	一四〇・五	備後洋	一三三・六

北海道南東沿岸地方は弱震（弱き方）なり、大島は強震（弱き方）なり、

有感覺面積八千六十方里に及び二回の餘震を發せり、格別の被害なし、

此の地には九月中に稍々著明なるもの三回小區域に亘るもの五回微震四回現れたり、

震城西方は水戸・筑波、北は函館根室に及べり、

十九日六	時四	分	稍顯著	磐城國安達郡	一四〇・四 三七・六
二十二日十二	時五十三分	〃	〃	岩代國 須賀川附近	一四〇・三 三七・一
二十五日十四	時三十一分	〃	〃	日高南方沖	一四三・〇 四一・〇
十月一日十三	時五十分	〃	〃	紀伊水道	一三四・九 三四・一
八日十	時三十八分	〃	〃	茨城縣下妻附近	一四〇・〇 三六・二
十二日二	時二十九分	〃	〃	安房沖	一四〇・九 三四・九
十四日二十	時三十八分	〃	〃	武藏中部	一三九・八 三六・二
十七日七	時九分	〃	〃	磐城東方 遙沖なる合	一四六・〇 三七・〇
二十六日七	時十四分	顯	著	安房南方沖合	一四一・〇 三四・〇
二十七日三	時三十七分	稍顯著	著	茨城縣下妻附近	一四〇・〇 三六・二
二十九日五	時十三分	〃	〃	日向灘	一三一・六 三一・六
十一月十五日二十二	時二十九分	顯	著	越後高田附近	一三八・二 三七・〇
二十六日十	時五十八分	顯	著	陸沖	一四三・五 三九・〇

陸地を去る三十五里の地點なり、

強震區域は高田市を中心として十
里四方を出でず強震區域にては十
の龜裂せし所頗る多く所々に屋根
石の落下せしものあり弱震區域は
新潟・長野・伏木に亘り有感震は
域は北方は秋田、東方は宇都宮に
亘れり、

天正三年	十一月二十八日	十九時四十六分	顯著	奄美大島の近海	一三〇〇〇	震域は關東より北海道東方に及びたり
十二月四日	十四時四十六分	稍顯著	金華山沖	一四二〇三		
二十日	十二時四十七分	〃	銚子沖	一四〇〇八		
二十二日	十七時五十七分	顯著	三陸東方沖合	一四七〇〇		
二十六日	二時六分	稍顯著	鹿島灘	一四一〇一		
二十六日	三時十八分	〃	宮古沖	一四二〇五		

大正四年	一月五日	十九時四十四分	稍顯著	九十九里濱沖	一四〇〇八	震域稍廣大にして臺灣全島は一般に弱震にして瓦の落下に近き臺灣北部地方にては瓦の崩れたる箇所百五ヶ所に延びて石垣の崩れたる箇所百五ヶ所に及べり
六月八日	時二十七分	(多)少被著	臺北東方沖	一二三〇五		
八月十七日	十七時十七分	稍顯著	九十九里ヶ濱沖	一四〇〇七		
十九日	五時五十七分	〃	根室南方沖	一四二〇七		

東經
北緯

記
事

二月六日	三月一日	三月九日	三月十八日	三月三十日	四月四日	四月六日	四月六日	四月八日	四月八日	四月八日	四月十一日	四月十三日	
十七時三十分	十三日一時三十六分	九日一時三十分	十八日一時三十六分	三十日一時三十分	四月十日一時五十四分	六日一時二十五分	六日一時三十三分	六日一時五十九分	八日一時三十七分	九日一時四分	十一日一時六分	十三日一時四十五分	
稍顯著	顯著	顯著	顯著	稍顯著	顯著	稍顯著	稍顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	
鹿島灘	釧路沖	臺灣東方沖	金華山南西沖	三陸沖	安藝海	磐城沖	三陸沖	鹿島灘	磐城沖	茨城縣下妻附近	鹿島灘	金華山沖	相模灘
一四一・三	一四二・〇	一四二・二	一四二・二	一四三・一	一四三・四	一四三・五	一四三・〇	一四一・五	一四一・五	一四一・〇	一四一・五	一四一・五	一三九・六

仙臺地方は一般に強震なりしが、被害なかりき、震域は名古屋より函館に及び、震域面積廣し、

震域北は函館、帶廣、西方は常陸地方に達せり、

大正四年		四月		三月		十九日		十九時		四十九分		稍顯著	
鹿島灘	三六・一												
茨城縣笠間附近	四〇・一												
鹿島灘	四一・二												
伊勢海	三六・六												
鹿島灘	三六・四												
浦賀水道	三五・八												
銚子沖	四一・三												
磐城沖	四二・〇												
鹿島灘	三六・五												
南カムチャツカ方	四二・〇												
五月一日	十四時												
二十五日	二十時												
二十二日	二十四時												
二十日	二十六分												
二十二日	五十四分												
十四日	三十六分												
三月十九日	四十九分												

強震區域は鹿島灘沿岸一體に亘れり、
 根室・函館・青森・秋田・宇都宮
 筑波山・横濱にては有感覺にして
 全國微動計に記象せり、東京にては
 初期微動三分二十三秒を計れり、
 には激震なりしならん、

六月一日	四月四日	時四十七分	稍顯著	日高南方沖	一四三・五
五日七	時〇分	顯著	陸中沖	一四三・五	
十六日十四	時十二分	稍顯著	釧路南方沖	一四五・〇	
十八日二	時五十二分	〃	磐城沖	一四一・四	
二十日一	時一分	多顯著 少被害	相模灣	一三九・四 三五・一	
七月二十五日一	時十九分	稍顯著	鹿島灘	一四〇・九 三六・一	
七月二十二	時三十七分	顯著	山梨縣谷村附近	一三九・〇 三五・五	
七日十	時三十九分	稍顯著	三陸沖	一四二・五 四〇・六	
九日七	時二十一分	顯著	磐城沖	一四二・〇 三七・三	
十五日十九	時三十分	稍顯著	霞ヶ浦附近	一四〇・五 三六・〇	
二十六日十四	時二十四分	〃	磐城沖	一四二・二 三七・一	

震域北は釧路より南は磐城に亘り
函館・青森は弱震なりき、

震源陸地に近く相模灣沿岸地方は
一帯に強震を感じ東京・甲府等は
弱震なり而して有感震域は東は
水戸北は長野、西は京都に及べり、
就中神奈川縣下、足柄上郡にては
壁の剝落、陶器の破損せし所あり
又甲府市にては水道鐵管に四五箇
所の龜裂を生じ爲めに一時斷水せ
り、

強震區域九百四十二方に亘れり
然れども被害なし、初期微動東京
十一秒、銚子二十一秒八、水戸十
六秒、濱松十六秒なり、

震域北は青森より南方は横濱に至
る地方なり、

大正四年
八月二日

九月六日	九月八日	九月十二日	九月十七日	九月二十五日	九月二十七日	九月三十日	十月二日	十月九日	十月十三日
二十時七分	二十時十分	九時九分	十一時十八分	十時十分	十一時三十三分	十二時三十八分	十二時四十分	十三時三十七分	十三時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	顯	顯
磐城沖	紀伊水道	日高南方沖	豐後海峽	八丈島附近	後志國都灣沖	陸前沖	茨城郡附近	擇捉島南方沖	花蓮港沖
一四一・七	一三四・九	一四二・七	一三三・二	一四〇・〇	一四〇・二	一四二・四	一四〇・〇	一五二・四	一二二・四

震域は廣くして水戸・福島・青森
函館等に有感覺なり、

房州・相州より北は宮城縣に亘る
北關東及常磐地方に弱震として感
じ有感覺區域廣大にして紀州より
石卷の太平洋沿岸地方に微震とし
て感ぜり、

十三日	二十一時七	分	顯	著	三	陸	沖	一四三・一 三九・〇
十四日	四時四十三	分	〃	〃	〃	〃	〃	一四三・八 三九・三
十四日	十二時十四	分	〃	〃	〃	〃	〃	一四二・九 三八・九
十五日	二時二十八	分	稍	顯著	〃	〃	〃	一四三・五 三八・八
十五日	三時四十分	分	〃	〃	金	華山	沖	一四三・四 三八・一
十五日	九時十分	分	顯	著	三	陸	沖	一四三・〇 四〇・五
十六日	一時五十五	分	稍	顯著	金	華山	沖	一四三・六 三八・二
十七日	〇時二十一	分	〃	〃	三	陸	沖	一四三・六 三九・七
十七日	三時三十八	分	〃	〃	〃	〃	〃	一四三・〇 三九・〇
二十三日	八時二十九	分	〃	〃	越	中東礪波郡	〃	一三六・九 三六・六
二十三日	十一時十七	分	〃	〃	日	向洋	〃	一三二・〇 三二・一
十一月一	日十六時二十五	分	顯	著	三	陸	沖	一四三・一 三八・九
一	日十六時五十一	分	小津浪あり	〃	三	陸	沖	一四二・七 三八・六

有感部は西方は彦根及津に及び而して北方にては函館にては尚弱震を観測せり、此地震に於ては高三尺に達せり、灣に於ては波高三尺に達せり、震源に於ては波高三尺に達せり、石巻に於ては波高三尺に達せり、品落下したるものあり、水上の天水桶の倒伏したるものあり、

大正四年
十一月一

一	日十七時五十一分	稍顯著	磐城沖	一四二・七
二	日十八時二分	顯著	金華山沖	一四三・一
四	日〇時四十三分	〃	三陸沖	一四三・三
四	日十二時十三分	〃	〃	一四三・七
十二	日三時二十二分	〃	上總沖	一四一・四
十二	日八時十六分	稍顯著	〃	一四一・三
十二	日十四時十四分	〃	〃	一四一・〇
十二	日二十二時五十八分	〃	磐城沖	一四一・四
十三	日二十三時十分	〃	〃	一四二・五
十五	日四時四十三分	〃	上總	一四〇・三
十六	日〇時四十六分	〃	越後魚沼郡	一三八・八
十六	日十時三十八分	顯著	房總沖	一四〇・八
十六	日十一時四十六分	稍顯著	浦賀水道	一三九・八
十六	日十一時三十四分	〃	〃	一三五・二
十六	日十一時五十五分	〃	〃	一三九・八
				三五・二

殆んど引き續きて起る

十七日八時五十二分	浦賀水道	一三九・八
十八日十三時四分	磐城沖	一四二・三
二十四日十四時二十二分	日高沖	一四三・五
十二月七日六時〇分	襟裳岬南東沖	一四四・六
十四日五時四十二分	磐城沖	一四一・九
十四日十九時二十分	襟裳岬沖	一四三・九
三十一日二十一時五十七分	磐城沖	一四一・三

大正五年	發震時分	震度	震央地名	東經	記 事
一月十四日十一時五十八分	(中央標準時)	稍顯著	鹿島灘	一四一・〇	
二十一日十七時七分		〃	常陸沖	一四二・三	
二十五日二十時三十八分		顯著	三陸沖	一四四・〇	
二十七日二十時五十六分		稍顯著	襟裳岬南東沖	一四三・六	
二月一日十一時二十三分		〃	德之島南東沖	一四九・二	

震域南は横須賀・水戸より北は北海道根室に達す、

大正五年
二月一

日十六時三十九分

顯著

種子島南東沖

一三一・二
二九・八

六日十九時五十六分

顯著

北海道南東沖

一四六・五
四〇・〇

八日六時十一分

顯著

伊勢海

一三六・七
三四・八

九日二十三時二十分

顯著

鹿島灘

一四〇・九
三六・四

十日七時二十五分

顯著

日高沖

一四二・九
四一・二

二十二日十八時十二分

顯著

淺間山麓

一三八・五
三六・四

二十二日二十時三十一分

多少被害

上州大笹附近

三月六日七時二十七分

顯著

陸中沖

一四二・二
三九・五

六日十八時十二分

顯著

別府附近

一三一・六
三三・五

八日十七時五十六分

顯著

日高國南東沖

一四三・六
四一・〇

八日十九時五十二分

稍顯著

磐城沖

一四一・一
三七・五

九日十時三十八分

顯著

襟裳岬南東沖

一四三・二
四一・二

十五日六時二十三分

顯著

別府附近

一三一・四
三三・二

十五日六時四十五分

顯著

肥後郡附近

一三〇・九
三三・〇

有感覺部は北方は宮津・京都に迄及び南方那覇に於ては弱震なりき

火山性地震にして有感區域比較的狹く東方は水戸、西は伏木、南は沼津に止まる、然れども上野國吾妻郡嬬村の縣道筋は山崩長さ十間に及び同郡大笹村は半潰家三、壁の倒潰二十九箇所、嬬村にては倒潰家屋七箇所ありたり死傷者なし

四月	十八日九時五十八分	顯著	日高國南東沖	一四三・七 四〇・二
	二十五日一時六分	稍顯著	下野國附近	一四〇・一 三六・六
	二十五日十五時三十六分	顯著	陸奥東方沖	一四二・五 四〇・六
	四月十二日四時五十分	顯著	日高沖	一四三・〇 四一・三
	十四日十一時十二分	稍顯著	八丈島東方沖合	一四二・四 三三・二
	二十一日十時八分	顯著	磐城沖	一四一・一 三七・二
	二十一日二十時三十四分	顯著	八丈島東方沖	一四二・三 三三・一
五月	二十二日一時四十八分	稍顯著	陸奥沖	一四二・〇 四〇・八
	五月十五日八時五十六分	顯著	陸前沖	一四二・五 三八・六
	二十日十一時二十一分	稍顯著	越前南條郡附近	一三六・八 三五・二
	二十九日二十三時四十二分	顯著	相模北部	一三九・三 三五・六
	三十日十八時二十分	顯著	釧路南東沖	一四五・七 四二・四
六月	月十三日七時一分	顯著	磐城南東沖	一四一・四 三七・一
	二十二日二十三時四十二分	顯著	磐城南東沖	一四一・四 三七・一

震域南方は水戸、北方は網走に至り釧路附近は強震なりき

八丈島・布良は強震にして弱震々々は沼津より金華山に至る地方にして有感震區域は四國より北海道に亘れり、

震域は北海道より關東地方に達し岩代及羽後は弱震區域なり、

大正五年		八月		
七月四日	四時四分	稍顯著	那霸東方の沖合	一二九・五〇
十一日十九時十二分	〃	〃	筑波山附近	一四〇・〇〇
十七日三時十六分	顯著	著	三陸沖	一四三・六一
十九日三時四十一分	〃	〃	磐城沖	一三八・八六
二十二日六時三十六分	稍顯著	著	陸奥東方沖	一四二・七二
二十四日五時七分	〃	〃	磐城沖	一四〇・九
二十六日十四時四十六分	〃	〃	房總遙の沖合	一四一・四九
八月三日九時十一分	〃	〃	常陸猿島郡附近	一三九・七
六日七時五十二分	〃	〃	備後灘	一三三・三
八日十三時二十五分	顯著	著	鹿島灘	一四一・三
二十一日二十三時三十三分	〃	〃	〃	一三六・一
二十八日四時五十七分	稍顯著	著	日向南東沖合	一三一・二六
二十八日七時四十三分	顯著	著	磐城沖	一四二・〇

有感覺區域廣大にして北は函館より西は高山・飯田に及べり規模大なりし地震は海中にて被害なし其震域の面積は之より九時間後に發せし臺灣の地震より遙かに大にして約三倍位の勢力なり

二十八日七時五十六分	稍顯著	鹿島灘	一四一・三 一三六・六
二十八日十六時二十八分	顯著(被害あり)	臺灣南投地方	一二〇・五 一三〇・九
九月一日二十三日二十分	稍顯著	筑波山麓	一四〇・一 一三六・二
二日〇時五十一分	〃	後志國瀨棚沖	一三九・七 一四二・五
十三日十三時四十二分	〃	屋久島南西沖	一三〇・七 一三〇・七
十五日十六時二分	顯著	房總南東沖	一四一・一 一三四・三
十月五日十時五十四分	稍顯著	磐城沖	一四一・二 一三七・一
五日二十一時三十六分	〃	日高沖	一四二・四 一四一・六
六日四時十五分	〃	日高沖	一四二・二 一四一・七
十七日十五時十二分	〃	釧路沖	一四四・七 一四四・一
二十一日十九時九分	〃	臺灣中部	一二〇・九 一三〇・七

震源は嘉義の北々東、南投の牛軋
 被書は死者十七人、傷者百六十一人
 潰家五十九、半潰千九十一戸、
 大破家屋六百二十三、破損家二千
 百八十戸なれども之れ等家屋は土
 埔作り脆弱なるもののみにして
 木造りの日本家屋は殆んど安全
 なり、震源より十里餘なる臺中に
 て強震(弱き方)澎湖・臺南・臺東は
 弱震、臺北・恒春は弱震(弱き方)
 なり

震域は北は秋田・青森、西は津、南
 には父島に及べり、伊豆御藏島に於
 ては道路破損せるところあり、

大正五年	十月二十一日	十一月六日	十一月十五日	十二月八日
二十一日二十二時二十四分	二十八日十二時二十分	十四日十四時四分	二十四日十三時四分	二十七日四時三十三分
稍顯著	顯著	稍顯著	顯著	稍顯著
磐城沖	陸前東方 遙の沖	小名濱東方沖	臺灣中部	臺灣中部
一四一・七 三七・四	一四八・〇 三八・〇	一四一・三 三六・八	一四一・三 三六・三	一四一・三 三六・三
震域北は千島・紗那より西は東京に及べり、	震源は臺中の南東方にして被害としては死者三名、傷者十七名、潰家百、半潰二百六、破損家七百六十八戸なれども皆土塙家屋なり、震域は狭く臺東にては已に無感覺なり	神戶市及明石・印南・津名各郡に多少の損害あり、死傷者各一名、家の小破、煙突水道管の破壊、地盤の小龜裂等ありたり、西方は安藝・伊豫に及び大坂及徳島も強震を感じり、	餘震	餘震
下總野田附近	下總野田附近	下總野田附近	下總野田附近	下總野田附近
一三九・〇 三六・八	一三九・〇 三六・八	一三九・〇 三六・八	一三九・〇 三六・八	一三九・〇 三六・八

十七日	十九時十分	稍顯著	磐城沖	一四一・三	照岳方面に發現せしものにして九州一圓に感じ震央地方にては壁の龜裂等多少の被害を生ぜり、餘震なり、
二十九日	時四十一分	稍顯著	肥後南部	一三〇・七	
二十九日	時四十七分	稍顯著	〃	一三〇・七	

月日	發震時分	震度	震央地名	東經	北緯	記事
大正六年 一月五日	一時五十分	顯著	臺灣南投	一二〇・九	二二・三	震源は埔里社支廳下の蓮華地附近にして死者五十二名、傷者八十三名、全潰家屋百二十四戸、破損建物二千六十一戸を出せり、震域は廣からず恒春・石垣島にては既に無感覺なり、家屋構造土角家屋のため被害震度の割合より多し、
五日	十二時三十分	稍顯著	鹿島灘	一四〇・七	三六・四	傷者二十一名、潰家百八十二、破損家屋五百十七、
七日	八時八分	顯著	臺灣南投	一二〇・八	二二・三	
十七日	三十一分	顯著	磐城沖	一四一・六	三七・二	
二十一日	四十分	〃	〃	一四二・〇	三六・九	
二十四日	五十二分	顯著	支那漢口北方	一一四・三	三一・二	震央地方に被害多しと云ふ、漢口及沙市は微震なり、本邦にては地動計に記象せり、
二十七日	五十四分	稍顯著	臺灣宜蘭沖	一二二・五	二四・九	

大正六年				
一月二十九日二十時二十七分	稍顯著	土佐西部	一三三・〇 一三三・三	<p>震域は僅かに沼津以東東京に及びべり、三十日十七時四十分頃より二月に亘り相州駒ヶ嶽鳴動に伴ふ地震頻發せるもの、中の最も著しきものなり、</p> <p>相模北西國境附近、</p> <p>震域は例によりて關東地方の東京横濱・金山・水戸・宇都宮地方なり</p> <p>震域北は陸中より西方は信濃東部に及びべり、相模・常陸・武藏及房總一圓は強震なり、</p> <p>函館及奥羽地方の東部に感ぜり、</p>
三十一日〇時四十分	〃	箱根附近	一三九・一 三五・三	
二月三日十時三十三分	〃	鹿島灘北部	一四〇・八 三六・八	
八日六時九分	〃	相模北西部	一三九・六 三五・六	
十二日十八時〇四分	〃	陸奥東方沖	一四二・一 四一・一	
二十二日〇時四十七分	顯著	八丈島西方沖	一三八・〇 三二・五	
三月十四日四時五十八分	稍顯著	鹿島灘	一四一・五 三六・五	
十五日九時十六分	顯著	三陸沖	一四三・七 四〇・七	
十八日七時十三分	〃	上總東方沖	一四〇・七 三五・二	
二十日十時三十九分	稍顯著	陸中沖	一四三・四 四〇・〇	
二十一日十六時四十八分	〃	釧路沖	一四四・八 四二・五	
四月三十一日十二時五十四分	顯著	三陸沖	一四四・五 三九・五	
二十六日十九時五十一分	稍顯著	常陸土浦附近	一四〇・一 三六・一	
五月五日二十時十九分	〃	臺灣東部沖	一二一・六 二二・二	

六月六日	八月八日	十月十四日	七月四日	二十九日	二十九日	二十九日
一月一日	八月十八日	七月七日	九月九日	九月九日	九月十日	九月二十三日
時二十八分	時三十八分	時四十二分	時四十分	時十八分	時五十八分	時三十三分
〃	顯著	顯著	〃	稍顯著	〃	顯著
磐城沖	鴨綠江流域	鹿島灘北部	沖繩島南方沖	利根川上流域	襟裳岬南東沖	陸奥北東沖
一四一・五	一四〇・七	一四〇・九	一二八・三	一四〇・二	一四四・二	一四二・四

顯著
多少被害

伊勢國龜山附近 一三六・九
 下總國西南部 一三九・九
 遠州北部 一三八・〇
 一三五・一

震域は東は常陸・房總より西は播州方面に達し、強震區域は静岡・愛知兩縣下及信濃南部に亘り被害甚し。知つては静岡市に煉瓦防火壁倒潰し爲に死者二名を生ぜり、其他壁の剝落土地の小龜裂等ありたり。

震域は朝鮮北西部及滿洲地方にして平壤及奉天にても尙弱震程度なり。

關東々々部には強震のさころ多し、震域は狭小にして北は陸前より西は信濃東部に及べり、西方は甲府・沼津に達せり。

有感區域九州南部より石垣島以南に及び沖繩島は弱震なり。

震域は北海道大半より武藏地方に及び、龍飛岬附近は強震なり。

大正六年	
七月三十日	九時三十二分 稍顯著 常陸國太田附近
八月十一日	十二時二十五分 顯著 三陸東方遙の沖
八月十三日	時二十五分 稍顯著 東京灣
八月十一日	時十五分 〃 〃
八月二十三日	十四時四十四分 顯著 根室南方沖
八月二十四日	二十二時二十七分 〃 北海道奥尻島沖
九月四日	日十一時四十二分 稍顯著 常陸國筑波附近
九月十二日	二十二時四十六分 〃 房總遙の沖
九月二十九日	十二時四分 〃 十勝沖
十月一日	日二十時十二分 〃 筑波山附近
十月十七日	三時四分 〃 〃
十月十九日	五時四十三分 〃 伊勢北部
十月二十二日	二十三時四十九分 〃 筑波附近
十月二十五日	七時〇分 〃 房總沖
十月二十六日	三時二十四分 〃 鹿島灘

震域北は北海道南東部より南は伊豆に及べり、

北海道南東部に感ぜり、

天鹽國留萌附近に感ぜり、

常陸乃至武蔵一圓は強震なり、

東は遠江より西は播磨に及べり、

十一月五日	十一月十一日	十一月十二日	十一月十七日	十一月十六日	十二月三日	十二月六日	十二月七日	十二月十八日
一時二十三分	一時四十分	一時四十三分	一時四十三分	一時四十分	二時三十三分	二時三十九分	二時三十三分	二時十九分
稍顯著	稍顯著	〃	〃	〃	稍顯著	稍顯著	稍顯著	稍顯著
上總東部	〃	磐城沖	日高沖	陸中沖	陸中沖	三陸沖	下總北沖	熊野灘
一四〇・三	三五・三	一四〇・三	一四一・四	一四三・六	一四一・三	一四二・八	一三九・四	一三六・二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
愛知三重兩縣下地方は弱震なり、	震域北は函館より南は磐城に及び三陸地方は弱震區域にして所々に強震を感じ、	震域近畿方面及東海道過半に亘り、	日高及三陸東部は弱震なり、	〃	〃	〃	〃	〃

大正七年	一月十三日	一月十四日	一月十六日	一月十七日	一月二十一日	一月二十八日
發震時分	四時四十八分	四時四十八分	三時三十分	三時三十分	三時十分	三時三十七分
震度	稍顯著	稍顯著	〃	〃	〃	顯著
震央地名	釧路沖	花蓮港沖	伊豆沖	磐城沖	〃	〃
北緯	四二・五	二二・三	三三・九	一三八・七	一四二・〇	一四二・四
東經	一四五・〇	一四二・五	一四二・〇	一三七・一	一四二・〇	一四二・四
記事	陸中沼宮内・福島・水戸に亘る奥羽地方の過半及關東地方の一部に感ぜり、	〃	〃	〃	〃	〃

大正七年				
一月二十四日	二十一時十五分	稍顯著	鹿島灘沖	一四一・五
二十五日	時五十二分	〃	〃	一四一・五
三十一日	六時二十分	双子地震	八丈島南西沖	一四二・九
二月十一日	八時二分	稍顯著	陸前沖	一四二・九
十三日	十五時八分	被顯著	支那汕頭附近	一四三・〇
三月三日	二十二時二十五分	顯著	三陸沖	一四三・六
九日	十八時五十三分	稍顯著	下總北部	一四〇・三
十二日	二十時四十八分	〃	鹿島灘	一四一・二
二十五日	二時五十六分	顯著	房總沖	一四一・七
二十七日	十二時五十三分	稍顯著	臺灣新竹附近	一四一・七
三十一日	十九時二十四分	〃	大和國中部	一三六・〇
四月一日	十九時九分	〃	臺灣東方沖	一三一・五
二日	十二時三十四分	〃	日向國東方沖	一三二・五
十日	十一時六分	顯著	日本海	一三二・〇
十七日	五時三十八分	稍顯著	大隅海峡	一三〇・九

臺灣地方は緩慢にして稍強き地震を感ず震央附近は死者多數なり
北海道南部及奥羽地方は微震を感ず

震域關東地方に亘れり、東京灣沿岸は弱震なり

近畿・中國・四國を震域とせり、近畿地方は弱震なり

震域九州及四國の一部なり、

函館・石巻・水戸は微震の外奥羽地方の一部及び關東地方一圓に有感覺なり

八月二日	七月十二日	七月十七日	七月二十日	六月二日	六月二十六日	五月十七日	五月十九日	五月二十一日	五月三十一日	六月二日	六月二十六日	七月十七日	七月十八日	七月十九日	七月二十一日	七月三十一日	八月二日
四	九	六	九	八	二	七	七	七	七	二	二	六	十一	十一	十一	十一	二
時三十二分	時十八分	時三十三分	時三十三分	時二十七分	時四十七分	時二十九分	時三十三分	時五十分	時五十分	時五十分	時四十七分	時三十七分	時三十八分	時三十八分	時三十八分	時三十八分	時三十七分
稍顯著	稍顯著	〃	〃	〃	顯著	〃	〃	顯著									
相模中部	東京灣	豊後海峡	鹿島灘	磐城沖	甲州谷村附近	南方遙沖	安房遙沖	南東遙沖	北海遙沖	下總國東部	上總東方沖	九十九里ヶ濱沖	上野國館林附近	上野國館林附近	上野國館林附近	上野國館林附近	上野國館林附近
一三九・三 三五・五	一三九・九 三五・五	一三二・二 三二・九	一四一・五 三六・四	一四一・五 三七・〇	一三九・〇 三五・五	一四〇・二 三四・〇	一四〇・二 三四・〇	一四〇・六 四〇・六	一四七・八 四〇・六	一四〇・五 三五・八	一四一・〇 三五・四	一四〇・六 三五・四	一三九・七 三六・二	一三九・七 三六・二	一三九・七 三六・二	一三九・七 三六・二	一三九・七 三六・二

關東一圓は弱震を感ず、

千島諸島・北海道南部及奥羽地方に感ず、

震域東北は石巻より西方は大坂・徳島に亘る一帯なり、
震央附近は壁の崩裂、煙突の破壊、
石垣の崩壊等あり、
餘震の發生地を見れば青根岳附近に其震源あるもの、如し、

震域北は函館より南は八丈島西は信濃に及び關東地方は弱震の所多く殊中其東部の地方にては強震のさころ少ならず、

大正七年		八月三日		八月七日		八月八日	
十四時三十八分	稍顯著	武藏中部	一三九・四	十四時四十八分	〃	宮古島沖	一二五・九
十四時四十五分	〃	日高洋	一四二・六	十四時五十分	〃	〃	一四一・七
二十時三十分	〃	南洋ガム島沖	一四二・七	二十時三十分	〃	加賀中部	一四一・七
二十時四十六分	〃	得撫島南東沖	一三六・六	二十時四十六分	顯著、震 後津浪の 被害あり	得撫島南東沖	一三六・四
二十時三十七分	稍顯著	陸奥東方沖	一四二・三	二十時三十七分	稍顯著	磐城沖	一四一・一
二十時七分	稍顯著	得撫沖	一四一・五	二十時七分	〃	日向國南東沖	一三七・七
二十時一分	〃	〃	一五三・五	二十時一分	〃	擇捉島	一四五・二
二十時五十分	顯著	南方遙の沖	一三二・〇	二十時五十分	顯著	南方遙の沖	一四九・五
二十五時十九分	稍顯著	國後島南方沖	一四六・四	二十五時十九分	稍顯著	國後島南方沖	一四三・四

本邦地動計にて記象す

加賀にては所々強震を感じし所あり、北海道奥羽一圓及び關東地方の一部に感ぜり千島及北海道南東部に生じ紗那にては津浪の高さ六尺に達し父島にては津浪のため浸水家屋十九戸、流矢橋梁二ヶ所あり得撫島にては津浪のため二十三名行方不明となり

關東地方以北北海道の南部まで感ぜり

紗那・根室に感ず、

二十五日十八時四十一分	稍顯著	鹿島灘	一四一・六一 三六・六	<p>震域北は福島より南は伊豆諸島に及ぶ震央地方には諸々強震を感じり、</p> <p>震域は例により關東の一部即ち、水戸・筑波山・東京地方にして微震を感じり、</p> <p>松本・横濱は弱震、津・飯田・高山・甲府・福井・新濱は弱震(弱き方)なり、</p> <p>北海道及奥羽地方の一部は弱震にして關東地方に迄感ぜり、</p>
十月四日十一時五十七分	〃	武藏東部	一三九・九 三五・七	
十一日二時五十五分	〃	國後島 安渡移矢岬沖	一四六・九 四四・一	
十五日十二時三十一分	〃	鹿島灘	一四一・一 三六・四	
十一月八日十三時四十二分	顯著	北海道南東沖	一四六・五 四一・〇	
十一日二時五十九分	顯著	信濃國大町附近	一三七・九 三六・四	
十一日十六時四分	被顯著			
十一月二十二時二十二分	稍顯著	九州南東沖	一三二・五 三〇・五	
十二月十日三日時四十九分	〃	日向國東方沖	一三二・五 三二・二	
十四日六時三十四分	顯著	三陸遙の沖合	一四四・六 四〇・二	
十九日二時十七分	稍顯著	臺灣成廣灣沖	一二一・六 二二・〇	
二十三日六時四分	〃	磐城沖	一四二・〇 三七・七	
三十一日十四時三十一分	〃	遠江遙の沖	一三八・〇 三三・五	

大正八年	月	日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記事
一月	四月	十八日	十八時二十三分	顯著	日高襟裳沖	一四三・二 一四一・一	北海道中部及陸前の一部に感じ有 感覺面積一三八〇方里に及ぶ、 天龍川上流域に發現し有感區域五 五〇〇方里に亘る、
		十二日	二十二時二十一分	稍顯著	信濃南東部	一三八・〇 一三五・五	
		二十四日	十二時二十六分	〃	下總水海道附近	一三九・九 一三六・〇	
		二十七日	二十三時十二分	〃	陸中中部	一四一・三 一三九・六	
二月	十八日	十二時	四十五分	〃	鹿島灘	一四一・〇 一三六・六	有感覺區域三七七〇方里に及べり、 關東一圓に感じ其區域は二七五〇 方里なり、
		十九日	九時三十五分	〃	武藏浦和附近	一三九・八 一三五・九	
		二十五日	十時十九分	〃	鹿島灘	一四一・一 一三六・八	
三月	四日	二十一時	四分	〃	上總北部	一四〇・二 一三五・五	
		八日	四時五十七分	〃	陸奥東方沖	一四二・〇 一四〇・七	
		十一日	六時二十一分	顯著	沖繩東方沖	一二八・三 一二六・四	沖繩島にては強震を感じ其有感區 域一六九六〇方里に亘れり、
		十二日	十九時三十二分	〃	襟裳岬南東沖合	一四四・三 一四一・三	北海道南部及奥羽地方の北東部に 感じ有感區域一六〇二方里なり、
		十四日	八時十三分	稍顯著	日向灘	一三二・〇 一三二・五	
		二十三日	二十時三十二分	〃	陸中沖	一四二・二 一四一・〇	

二十六日二十二時三十七分	二十八日二十時三十七分	四月一日十七時五十二分	二月九日十七時五十四分	四月二日二十二時三十四分	七月十日二十九分	七月十六日八時五十三分	五月二十二日十九時十二分	五月三日九時五十四分	十月十四日四時十五分	十月十四日二十一時一分	十月十六日二十時四十八分	
稍顯著	稍顯著	〃	〃	顯著	稍顯著	〃	〃	顯著	稍顯著	〃	顯著	
八丈島沖	南々西沖合	越後中部	紀伊水道	伊豆沖	陸前沖	下總境附近	房總半島南東沖	三河足助附近	三陸沖	有明海	安藝沖	磐城沖
一三九・一	一三九・一	一三八・五	一三四・九	一三九・四	一四二・〇	一三九・九	一四〇・三	一三七・三	一四四・〇	一三〇・四	一三四・一	一四一・五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
例によりて北關東の一部に（東京も）有感覺なり、				奥羽地方の大半は弱震を感じ、水戸・筑波山及北海道の一部にも有感覺にして其有感區域一四一四〇方里に及ぶ、				三河・尾張及美濃に於て強震を感じ、有感區域は頗る廣區域に亘り北は紗那より南は京都及父島に達も感じ其區域五八七五〇方里に達す北海道過半、關東地方以北にては弱震を感じ所々強震を感じし所あり、		中國及四國地方は弱震を感じり有感面積四九五〇方里、	奥羽・關東は弱震を感じ其有感區域は一四九六〇方里に及べり、	

大正八年					
五月二十二日	二十二時八分	稍顯著	周防灘	一三三・二	
六月一日	時三十五分	〃	霞ヶ浦附近	一四〇・九	
一	日十五時五十三分	顯著	石垣島北方沖	一二三・八	琉球諸島は弱震を感じ有感面積二四一九〇方里なり、
三	日八時二十六分	稍顯著	三河足助附近	一三五・四	
六	日二十二時二十五分	顯著	紀伊水道	一三四・九	近畿地方全部及び四國地方は弱震、大阪灣附近にては所々強震を感じ有感面積一二一〇〇方里なり、
七	日十九時十八分	稍顯著	鹿島灘	一四〇・七	
二十三日	十五時二十八分	〃	陸奥沖	一四二・二	
七月二	日十六時二十一分	〃	豊後南部	一三三・〇	伊豫に強震を感じ九州北東部四國西部は弱震なり、
十	日一時二十一分	〃	鹿島灘	一四一・一	
十六	日十三時十分	顯著	北海道南東沖	一四六・〇	北海道南東部は弱震を感ず、
十九	日〇時八分	稍顯著	臺灣中部	一二〇・九	
二十	日十五時二十六分	顯著	磐城沖	一四一・八	金華山にては強震を感じり有感面積一二五七〇方里なり、
二十二	日八時五十一分	〃	日高沖	一四二・五	
八月四	日三時十分	稍顯著	銚子沖	一四一・五	房總半島にては強震を感ず、
四	日五時二十八分	〃	下總水海道附近	一四〇・〇	
				一三六・一	

四日	五日	八日	九日	十五日	二十九日	九月十二日	九月十七日	九月二十二日	九月二十八日	十月三日	十月十一日	十月十四日	十月十六日	十一月一日	十一月一日
時五十四分	時三十二分	時五十六分	時七十分	時三十五分	時五十四分	時十一分	時二十五分	時三十五分	時二十分	時十九分	時三十八分	時四十七分	時三十三分	時三十分	時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
鈹子沖	鈹子沖	三陸沖	武藏多摩川下流	臺灣埔里社附近	陸中沖	陸中沖	石卷灣	石卷灣	霞ヶ浦附近	陸奥沖	鹿島灘	花蓮港沖	沖繩島沖	臺灣東方沖	臺灣東方沖
一四一・四	一四一・四	一四三・八	一三九・七	一二三・九	一四四・〇	一四三・五	一四一・四	一四一・四	一四〇・一	一四二・六	一四〇・八	一二二・三	一二八・〇	一二二・〇	一二三・四
			相模にては所々強震を感じ關東地方の大半は有感なり、有感面積二七五〇方里なり、				北海道南部・本州東部は有感覺なれども皆て微震を感じ、			日向國にては強震なり有感面積は一五〇八〇方里なり、					

大正九年 一月三日	月 日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記 事
大正八年 十一月一日	日 八	時三十六分	顯著 多少被害	備後三次	一三二・九 三四・八	土藏壁の龜裂、石垣の小破等あり 最大加速度震央附近にて約六百耗 (毎秒)位なり、震央は八次村北部 なるべし、中國地方・四國大半部及び近畿地 方の一部に感ぜり、有感面積五五 〇〇方里なり
十二月十二日	日 一	時四十一分	稍顯著	豐後海峽	一三二・〇 三三・三	
二十日	日 九	時二十八分	顯著	鹿島灘	一四二・〇 三六・九	磐城・常陸・下總に弱震を感ず有感 面積一九八〇〇方里なり
二十一日	日 四	時三十三分	〃	臺灣火燒島附近	一一一・四 二二・五	
二十一日	日 五	時三十六分	〃	〃		
二十一日	日 六	時三十九分	稍顯著	日向南東沖	一三一・九 三一・六	宮崎市にては振子時計止まる、宮 崎・鹿兒島兩縣下にては弱震なり、
二十八日	日 十	時十分	〃	勝浦沖	一四〇・四 三五・一	

三	日十七	時四十二分	〃	秋田	沖	一三九・六
六	日十二	時四十九分	顯著	磐城	沖	一四一・八 三七・四
八	日一	時五十九分	稍顯著	鹿島	灘	一四一・一 三六・四
十三	日七	時五十九分	〃	〃	〃	一四一・一 三六・四
十四	日三	時三十分	〃	秋田	沖	一三九・六 三九・六
十四	日十五	時五十五分	〃	〃	〃	一三九・六 三九・六
十七	日十八	時二十八分	〃	鹿島	灘	一四〇・九 三六・六
十八	日三	時四十二分	〃	秋田	沖	一三九・六 三九・六
二十	日十三	時十分	顯著	花蓮港	沖	一二二・〇 二四・〇
二十三	日六	時四十三分	稍顯著	〃	〃	一二二・〇 二四・〇
二月二	日十九	時四十二分	〃	磐城	灘	一四一・三 三七・五
八	日〇	時六分	顯著	陸奥東方の沖	〃	一四二・五 四〇・八
十一	日十五	時三十七分	〃	鹿島	灘	一四一・三 三六・七
十九	日十三	時四十八分	稍顯著	信州梓川流域	〃	一三七・八 三六・二

感覺區域本州中部より東北地方に及び華山附近は強し、磐城沿岸は弱震なり

感覺區域北海道南岸より西は東京横濱附近に達せり總面積九四二〇〇方里なり、水戸海岸は最も強くして弱震を感ず、十八日以來松本・平附近に屢々微、弱震あり即ち十八日十九日の兩日

大正九年				
二月十九日十六時五十五分	稍顯著	津輕海峽	一四二・〇	<p>にて三十二回の小區域地震及十九回の局發地震ありたり、</p> <p>北海道南半、本邦の東半に亘りて有感なり、</p> <p>豊後・伊豫にては強震なり、感覺區域・山陽・山陰・四國及九州北半に亘る、</p> <p>和歌山にては弱震なり、</p> <p>金華山は弱震なり、</p> <p>陸前金山附近まで一帯に有感覺なり、</p> <p>異常震域を成して關東地方に於て一般に感覺ありたり、</p>
二十三日二時三十二分	顯著	北海道東方の沖	一四八・二	
二十三日十五時三十一分	稍顯著	豊後海峽	一三二・〇	
三月二日二時三十九分	〃	石狩川流域	一四一・六	
四日十七時五十七分	〃	紀伊水道	一三五・〇	
十三日十九時三十九分	〃	花蓮港沖	一二二・〇	
十九日十時五十五分	〃	鹿島灘	一四一・〇	
二十五日十六時五十七分	〃	〃	一四一・〇	
二十七日十九時三十二分	〃	室蘭附近	一四一・一	
四月三日十二時四十六分	〃	鹽屋崎附近	一四二・二	
四日二十時五分	〃	大和南部	一三五・七	
十二日八時五分	顯著	得撫島南東の沖	一五三・〇	
十三日二時三十八分	稍顯著	銚子沖	一四一・〇	
十五日二十一時十四分	〃	遠州灘	一三七・五	

五月	十八日十一時三十七分	〃	四阪島附近	一三三・一三四・一四二・七	瀬戸内海沿岸に一般に感じ、四阪島にては強震なり、
五月	二十三日二十時三十五分	顯著	北海道襟裳岬沖	一四一・七	
五月	二十四日〇時八分	稍顯著	浦賀海峡	一三九・八三五・二	
五月	二十六日十一時十一分	顯著	磐城中部	一四〇・五三七・六	陸前金山附近は弱震にして、有感區域は關東及東北地方に及び面積一七八〇方里なり、
五月	三十日二十三時五十二分	稍顯著	筑波山附近	一四〇・二	
五月	日十八時四十分	顯著	浦鹽南東の沖	一三三・四	異常震域にして人體感覺は北海道函館・浦川及び鹽屋崎附近、横須賀附近なり、
五月	十一日十五時三十五分	稍顯著	福島縣白河附近	一四〇・二	
五月	十二日十六時十分	〃	羽後能代川上流域	一四一・〇	
五月	十三日六時四十五分	顯著	伊豆大島附近	一三九・三三四・七	強震は大島・横須賀にして有感區域は鉏路より西方は潮岬・津・彦根に亘り八丈島にも及ぶ、被害なし、
六月	二十二日四時十九分	稍顯著	豊後水道	一三二・〇	九州・四國・山陽・山陰に感覺あり、
六月	二十六日四時五十五分	〃	鹿兒島縣加世田附近	一三〇・三	
六月	二十九日二十時二十一分	〃	花蓮港沖	一二四・〇	
六月	日十三時二十一分	顯著	花蓮港沖	一二一・七	強震區域は蘇澳附近より成灣南部に至る地方にして其他は強震の弱なり、普通日本造家屋は何等損害なきにも關らず土桶家屋は

なり、震源に最も近き花蓮港に被害少なきは數年前大火災後新築家屋の多きと又一般に東海岸は人口稀薄なるためなり、此表以外に酒壺破壊、煙突破損、道路、橋梁、電柱等の損害家畜の壓死等ありたり、石垣島・臺灣の大部は強震(弱き方)にして強震部四四〇〇方里に達し、花蓮港に於ては少くとも一回の有感覺の前震ありたり、石垣島にては初期微動二十八秒、澎湖島二十六秒、臺東十四秒なり、那覇二十一秒、臺南十四秒、恒春二十四秒なり又海震は顯著にして花蓮港附近沿海を航海せる長春丸は暗礁に觸れたるが如く感じ基隆港内の船舶亦之を感ず、日本郵船會社三河丸は北緯二十三度十二分東經百二十二度邊に於て海震を感じ机上の器物墜落せり云ふ、

五	日二十三時四十五分	稍顯著	花蓮港沖	一二一・七 二四・〇	餘震、
六	日〇時五十四分	〃	〃	一二一・七 二四・〇	〃
六	日一時三十九分	〃	〃	一二一・七 二四・〇	〃
六	日五時三十二分	〃	那覇西方の沖	一二六・〇 二六・三	花蓮港沖の餘震なり、此に表出せし外、花蓮港の地震に續發して南西諸島にては石垣島附近に四回、名瀬三回、臺灣全島にて有感のもの十回ありたり、
七	日七時五十一分	〃	花蓮港沖	一二一・七 二四・〇	
七	二十五日十九時二十四分	顯著	襟裳岬附近	一四三・八 四二・〇	
七	月三日二十三日十九分	稍顯著	前橋附近	一三九・一 三六・四	弱震を感ぜしは水戸・足尾・横濱・日光・宇都宮・熊谷等なり、
四	日十三時十九分	〃	高崎附近	一三九・〇 三六・三	關東地方にては七月中に此他に有感地震七十五回ありたり、
七	日〇時八分	〃	十勝海岸	一四三・五 四二・五	
十二	日十時十五分	〃	伊豆大島附近	一三九・四 三四・七	大島々廳よりの報告によれば十二日午前九時四十八分に微震一回あり十時十五分強震あり爾後大小の地震續發し十二日夜までに合計三

大正九年

七月十日	二十一日	十一時五十七分	稍顯著	十勝海岸	一四三・五 一四二・五
十三日	二十二時十五分	〃	〃	臺灣宜蘭沖	一二二・七 一二一・七
二十日	二十一時十八分	〃	〃	三宅島東方の沖	一四〇・〇 三四・〇
八月十五日	二十時五十分	〃	〃	岐阜附近	一三六・七 一三五・〇
十七日	十六時四十二分	〃	〃	釧路沖	一四四・五 一四二・五
九月六日	十三時四十一分	〃	〃	茨城縣北部	一四〇・五 一三六・八
十七日	〇時八分	〃	〃	惠山岬東方沖	一四一・八 一四一・八
二十一日	五時二十七分	〃	〃	陸奥東方の沖	一四二・六 一四一・一
二十七日	十四時三十一分	〃	〃	襟裳岬南東方沖	一四四・三 一四一・二
十月十八日	十七時十四分	〃	〃	紗那南方沖	一四八・〇 一四一・四
二十日	三時二十六分	〃	〃	釧路沖	一四四・九 一四一・九
二十日	十九時二分	〃	〃	花蓮港沖	一二二・〇 一二四・〇

十四回の多きに達し其外微震多數あり十三日に至りても十四回、十四日及十九日各一回ありたり、被害なし三原山も異常なし、

弱震八丈島にして微震は東京・筑波山・沼津尾尾等なり、

美濃・尾張・三河・伊勢は弱震なり、

北海道の大部分にて感覺あり釧路は弱震なり、

千葉縣北半・東京・埼玉・栃木・茨城福島の諸府縣に亘りて感じたり、

震度は強きところも弱震なり、青森縣東部・北海道渡島・膽振附近の一部に於ては強震を感じり、

震域南は金山より北方は旭川附近に亘り面積二〇八九〇方里なり、

震域南は水澤北は札幌・釧路に亘りたれど皆微震を感じしのみなり、

函館・宮古・釧路・福島にて微震を感じず、

震域南は甲府より北は千島一帯に亘り岩手より紗那に至る海岸は弱震を感じり、

紗那は強震なり、納沙布岬にては弱震なり、

臺北は弱震、臺中は微震なり、

二十一日四	時十六分	稍顯著	花蓮港沖	一二二・〇
二十四日二十一時五十八分	顯	著	陸中沖	一四二・四 三八・九
十一月九日二	時三十八分	〃	鹿島灘	一四二・〇 三六・三
三十日十	時二十七分	稍顯著	有田川上流域	一三五・六 三四・一
十二月三日八	時四十分	顯著	鹿島灘北部	一四一・四 三六・五
五日三	時四十五分	稍顯著	東京灣北岸	一三九・八 三五・八
十四日十一時二十二分	〃	〃	安藝海東部	一三二・八 三四・二
十六日二十一時九分	顯	著	支那甘肅省大地震	一〇八・〇 四〇・〇
十九日七	時五十一分	稍顯著	筑後川上流域	一三〇・八 三三・三
二十日五	時十一分	顯著	磐城東部	一四〇・七 三七・四
二十二日五	時八分	稍顯著	襟裳岬沖	一四二・九 四一・六
二十五日六	時五十分	〃	日向洋	一三一・八 三二・二
二十七日十八時二十二分	顯著	被著害あり	箱根附近	一三九・〇 三五・二

弱震宮古、同(弱き方)は石巻・金山にして震域は茨城北半部以北に感ぜり、
弱震は金山・横濱等なり、

震域は本州東海岸に沿ひ北は宮古南は沼津に及び面積一八四〇〇方里に達せり、銚子・足尾・福島にては弱震なり、

東京の少しく北東にして震域は關東一帯なり東京弱震(弱き方)なり、
震域は四國及中國一帯なり震度は弱(弱き方)なり、

甘肅省にては多數の死傷者を生じ本邦にては臺中・金澤・徳島にて感ぜり、又天津にては強震(弱き方)なり、

震央は隈町附近にして震度強(弱き方)なり震域九州一圓及山口縣下に互れり、
強震(弱き方)は福島・宮城縣の東部にして有感區域北は函館より南は沼津・京都に及べり、

震域は宮崎・鹿兒島兩縣下にして宮崎市にては弱震(弱き方)なり、
同日午前中より多少の微震を感じ八時四十六分頃強津にて観測せる

大正十年 二月二十	日十六	時七 分	震度 顯著	震央地名 擇捉島の南	東經 北緯	記事
二十三日	時五十六分	稍顯著	鹿島灘	一四一・九 三六・一	北海道の一部及水戸にては微震に 三時五十八分二十分十九日二十 二十九日二時頃も稍々勢力強き地 震發生せり 横濱・金山は弱震(弱き方)にして 震域は關東地方の大部分に亘れ り 弱震は吳・弱震(弱き方)は廣島・左 賀にして震域は九州北部中國及四 國なり 震域は噴火灣沿岸なり、	
十二日二十三時五十三分	〃	〃	豊後水道	一三一・九 三三・五		
二十五日十九時二十八分	〃	〃	惠山岬沖	一四二・一 四一・九		

月	日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記事
						<p>分頃も此前震の一なり十七時二十 も突然箱根地方一帯に強震あり 次で小區域及び局部性地震頻々 して起り遂に此地益々増加なり 其後二十時其間には二十五回以上 二十時其間には二十五回以上 及べり、その後は次第に鎮靜し 半後には大に其數を減ぜり、若 畔の箱根町一帶は地震のため潮 石の燈籠の轉倒、破損せるも裂 多し又家の多少移動せり、震源 大正六年の地震に比して少しく し、大正六年の地震に比して少 大正六年の地震に比して少しく し、大正六年の地震に比して少 は、大正六年の地震に比して少 數は、大正六年の地震に比して少</p>

二月十四日十二時〇分	三月三日十二時二分	四月二日十八時三十六分	四月八日十三時五十二分	四月八日二十三時三十五分	四月十九日二時五十九分	五月十一日二十時二十九分	五月十三日二十時五十三分
〃	顯著	顯著	稍顯著	〃	〃	〃	〃
甲斐谷村附近	磐城東部	八丈島南々西	伊豆七島附近	石垣島南々西沖	陸中沖	大分縣佐伯附近	〃
一三九〇	一四〇〇	一三九〇	一三九七	一二三六	一四二二	一三一七	一三九四

相模全部武蔵の一部にては強震(弱き方)にして震域は東は茨城西は岐阜・愛知、北は長野縣に及び、強震(弱き方)は金山・熊谷・福島にして震域は函館及飯田に達し面積三九二〇方里なり、異常震域にして千葉・茨城縣下に感ぜり、北關東一帯に有感せり、石垣島弱震、九州の大部、四國西端に有感なり、佐伯附近にては強震(弱き方)にして被害有るべき程度にあらざる地震なれども兩三日前より降雨にて地は弛緩し居りたるため徳浦隧道一〇八哩一八附近の約百尺の切取りも龜裂を生じ汽車通過前約十五坪も崩壊し、汽車通過の際には約七土砂と衝突し又再び崩落の土砂のため脱線顛覆し破壊せり、強震(弱き方)は廣島にして震域九州北部・中國及四國の一部に亘れり、陸前國金山弱震、弱震は横濱同(弱き方)は東京・横須賀にして震域は茨城南西部より静岡・山梨の諸縣なり、

大正十年	
五月二十七日	時二十九分 稍顯著 千島列島東方沖
六月十四日	十三時四十七分 〃 磐城海岸
二十二日	二十時二十三分 顯著 襟裳岬南方沖
二十四日	六時二十四分 稍顯著 名瀨附近
二十八日	七時五十五分 〃 陸中沖
七月四日	日二十三時二十分 顯著 ウラジオスト
十九日	二時三十分 稍顯著 臺灣中部
二十五日	十時三十九分 〃 花蓮港東方沖
二十六日	四時二十七分 〃 臺灣中部
三十日	〇時四分 〃 臺灣南東部
八月九日	十九時三十八分 〃 襟裳岬南東沖
二十八日	五時十八分 〃 日高沖
二十八日	二十時二十三分 〃 〃
三十日	〇時七分 臺灣中部

本邦にては有感のさころなし、微動計にては本邦全般に於て観測せり。震域北は石巻より南は千葉縣北部にして微震を感じ、同(弱き方)は弱震(帯廣にして、同(弱き方)は函館(帯廣にして、同(弱き方)は函館)青森・秋田縣に亘れり。二十三日七時四十五分四十秒の地震を始めとし、二十六日迄に九十七回の地震を観測し、内五回は有感なり(名瀬測候所報告)

有感は水戸・福島・函館等本州太平洋沿岸の一部にして異常震域を成す。嘉義山岳地方なる楠仔脚万地方強震なり被害なし、

北海道南海岸一帯に感ぜり、

函館地方より釧路に至る地方に感あり、

臺中は強震(弱き方)にして有感は臺灣北半部なり、

一四一・〇
三七・二
一四三・〇
四一・三
一三〇・〇
二八・二
一四二・一
四〇・四
一三三・四
四一・二
一二〇・八
二三・六
一二二・四
二四・二
一一一・二
二三・六
一一一・四
二二・三
一四四・二
四一・五
一四二・六
四一・五
四二・六
四一・五
一四二・六
四一・五
一二〇・五
二三・七

九月五日	日二十一時二十八分	稍顯著	襟裳岬西方沖	一四二・五
六日	五時二分	顯著 <small>(被害あり)</small>	千島新知島附近	一五三・〇 四七・八
八日	十三時十分	稍顯著	八丈島南々西沖	一三九・〇 三〇・五
九日	十一時二十分	〃	襟裳岬西方沖	一四二・五
九日	十八時十分	〃	〃	一四二・五
二十七日	八時五十分	〃	八丈島南々西沖	一三九・〇 三〇・六
十月二日	二十三時五十七分	〃	東京北方	一三九・七 三五・八
五日	十三時十七分	〃	新川瀉縣	一三九・〇 三八・七
十二日	十六時四十四分	顯著	紗那南方遙の沖	一四六・五 四二・二
十四日	四時三十三分	稍顯著	大分縣佐伯附近	一三一・八 三二・九
二十八日	二十三時十分	〃	薩摩半島附近	一三〇・五 三一・二
十一月十二日	二十三時三十分	〃	薩摩半島	一三〇・五 三一・二
十五日	十三時五十分	〃	對馬海峽東北部	一三一・〇 三五・一
十五日	二十二時五十分	〃	〃	一三一・〇 三五・一

帶廣弱震なり、

新知島の北西端附近に崩壊したり

關東地方の一部に有感震なり、

關東地方の一部に有感震なり、

弱震は横濱にして同(弱き方)東京・横須賀なり、震域は東京府及神奈川縣東部地方なり、

震域北は秋田地方より南は新潟地方に至る日本海沿岸なり、

有感區域南は秋田・石巻より北は紗那に至る太平洋岸一帯にして紗那にては弱震(弱き方)なり、

大分は弱震(弱き方)なり、

二十九日五時伊佐郡大口町及出水町附近に地震あり之より以後薩摩半島時々有感地震あり、

薩摩全體に亘り有感なり以來薩摩南半の地は毎日二三回の局發地震あり十二月に入りても尙十一回の小區域及局發地震あり、

愛媛及鳥取縣の一部と廣島・島根・山口縣及對馬の一帯に亘り微震を感じ、

境・金山・嚴原等に微震を感ず、

大正十年		發震時分		震度		震央地名		北東經緯		記事	
十二月二	日二	時五十一分	稍顯著	石垣島西方沖	一四〇・一	二四・八	震央附近にて、石燈の倒れ壁の龜裂、地面の小龜裂あり、震域北は釧路より南は大坂に亘り、東京・銚子・水戸・熊谷・宇都宮・横濱・横須賀は強震(弱き方)なり、地震後餘震五十數回に達し内二十四回は有感覺なり、東京にても水道の破損、壁の龜裂等生ぜり、				
八	日二十一時三十一分	(被顯著害)	龍ヶ崎附近	一四〇・一	三四・八	弱震は宇都宮・山形・福島・熊谷にして震域北は巖手縣下より南方は長野及静岡縣に亘れり、					
十一日十八時五十八分	稍顯著	十勝川上流域	一四二・五	四二・八	陸奥沖	一四二・三	四一・〇	那須附近	一四〇・一	三七・〇	
十二日二十時二分	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十日十七時四分	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著

大正十一年		發震時分		震度		震央地名		北東經緯		記事	
一月四	日十五時三十二分	稍顯著	利根川流域	一三九・九	三五・九	野田附近	一三九・九	三五・九	弱震(弱き方)は熊谷・横須賀・宇都宮・足尾にして有感震域北は福島縣南部より南は神奈川縣東半部に亘れり、		
十日二十二時四十一分	〃	〃	臺灣中部	一二一・二	二三・七	臺灣中部	一二一・二	二三・七	臺灣及石垣島にて有感覺なり、		
二十三日七時五分	(多顯著少被害)	磐城沖	一四一・四	三七・三	磐城東部にては強震(弱き方)なる所ありてために隧道内の小龜裂又						

二月六日	七日	時十九分	稍顯著	四國吉野川上流	一三三・九 三三・九
九日	二十三日	時五十三分	〃	大和國南部	一三六・一 三四・二
十日	二十二日	時三十七分	顯著	磐城海岸附近	一四一・〇 三七・二
十五日	十日	時十分	稍顯著	〃	一四〇・九 三七・〇
二十四日	九日	時五十六分	〃	〃	一四一・〇 三五・四
二十六日	十七日	時五十七分	〃	根室南方遙の沖	一四五・九 四一・九
三月四日	六日	時二十八分	〃	鬼怒川流域	一四〇・〇 三六・一
四日	二十二日	時十分	〃	カムチャツカ半島南方沖合	一三五・〇 三四・三
十日	十八日	時二十八分	〃	紀伊水道北部	一三五・〇 三四・三

は瀬戸燒窯の破損せしものあり、
弱震は福島・熊谷・横濱・横須賀・山
形にして東京・石巻・新瀨・甲府・宇
都宮は弱震(弱き方)なり、有感覺
區域北は旭川より南は伏木・沼津
に亘れり、
四國及和歌山縣下に感覺せり、

四日二十二時頃地鳴を伴へる小區
域地震を前驅せり、本震のとき
も地鳴を伴ひ、盛賀・三重・奈良・和
歌山の諸縣にて聞きたり、
津は弱震にして、敦賀・濱松・福井は
同(弱き方)なり、有感覺區域は近
畿地方、四國の一部、岐阜・静岡縣
下の大半、甲府・箱根附近までに
及べり、

弱震(弱き方)は水澤・宇都宮にし
て震域巖手・秋田の兩縣より南方
山梨・神奈川の諸縣に至る地方に
及ぶ、

水澤は弱震なり、震域巖手・秋田よ
り甲府・三崎半島に及ぶ、
震域宮城・福島・茨城の三縣に過す
根室・釧路・函館・秋田に於ては微
震なり、

秋田に微震を感ず、
震域は三重・奈良・和歌山・大阪・徳
島・香川の諸府縣及高知・岡山縣の

大正十一年
三月十一日

九日

時一分

稍顯著 紀伊水道北部

一三五〇
三四三〇

十七日

三十一分

顯著 鹿島灘

一四一〇
三六五〇

十八日十七時五十八分

稍顯著 宇都宮附近

一四〇〇
三六五〇

四月二十三日十四時五十分

磐城東部

一四〇〇
三七九〇

二十六日十一時一分

顯著 木更津附近

一三九〇
三五九〇

一部にして之等の地方にて何れも微震を感じり

前記よりも震域稍狭し、何れも微震を感じり

弱震(弱き方)水戸・水澤にして震域北方は盛岡附近より南方は沼津附近に亘る

震央附近なる宇都宮は強震(弱き方)にして、水戸・熊谷は弱震なり

有感區域は關東地方・山梨・静岡縣下に亘れり

有感區域北方は秋田より南は甲府に亘る、石巻・金山は弱震(弱き方)なり

有感區域北は秋田より南方は八丈島、西方は奈良・京都地方に亘りたり、震央附近にては地鳴を伴へり

東京灣沿岸一帯に被害を被りたり、東京附近は屋根瓦、土藏壁、飾窓の硝子等に被害あり又煉瓦防火壁の倒れたるもの多し、石垣の墮落あり又死傷者數名あり、洋風大建築物壁の龜裂を生じたるものあり例へば丸ノ内ビルディングの如きものなり、千葉縣にては此の程度の被害多し、木更津附近にては小學校舎の傾斜あり金田村にては土藏一種潰壊し北條にては家屋の大破四十棟、館山にては十八棟、豊房にては四棟、館野・勝山にては各三棟、保田にて二棟あり、全潰は富崎村に三戸、豊房・館野・船形に各一棟ありたり、湊町にては高さ七十尺の煉瓦煙突より四分の三の所にて折れて七度許り回轉せり、布良にては崖崩にして家三棟破壊せり又布良望樓の石造は大破せり、横濱市内屋根瓦の落ちたるもの壁の割れたるものあり南京街は被害激甚にして煉瓦造二階家は全部崩れ落ちたるもの二箇ありたり但し南京街の煉瓦造は古く又接合メント甚しく粗惡のものなるため斯かる慘狀を呈せるなり、神奈川縣下の城ヶ島・觀音崎兩燈臺も破壊せり、各地の震度、強震(弱)・東京・飯田・熊谷・横濱・横須賀、弱震は甲府・筑波山・水戸・八丈島・宇都宮、弱震(弱き方)は福島・金山・石巻、其他は微震なり

二十七日十五時四十分	稍顯著	磐城東部	一四一〇 三七二〇
二十九日二時五十分	〃	磐城東部	一四〇〇 三七〇〇

二十三日のものさ程度稍似たり、秋田地方より山梨地方に亘る一帯に感ぜり、陸前金山は弱震(弱き方)なり

| 五月九日 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 十二時二十八分 |
| 顯著多し(被害あり) |
| 谷田部附近 |
| 一四〇・一 |
| 陸中沖 |
| 鳴門海峡 |
| 臺東北東沖 |
| 朽木縣鹽原附近 |
| 磐城東部 |
| 鹿島灘 |
| 釧路沖 |
| 襟裳岬東方沖 |

震域は北は秋田より南方は伊豆半島に至る一帯の地方及び金澤・岐阜・茨城縣南部及び千葉縣北部・埼玉縣東部にては強震(弱き方)程度にして多少被害ありたり、水戸管内の土浦にては電話線の切断せるもの三ヶ所、守谷にては棚上のもの落ち、井戸水の濁りたるものあり高層氣象臺にては廳舎壁に龜裂を生ぜり、谷田部附近にては壁に龜裂を生ぜり、

震域は北海道南半部より南方は山梨縣に亘り、帶廣・水澤・函館・金山・石巻・札幌は弱震(弱き方)なり震央附近にては弱震(弱き方)なり

臺灣本島及石垣島に感ずす、恒春臺東にて弱震(弱き方)なり、

宇都宮は強震(弱き方)弱震(弱き方)は金山及熊谷にして有感覺區域北は秋田・岩手縣下より南は山梨・千葉・神奈川・東京の諸府縣に亘れり、被害なし、

有感覺區域北は秋田・岩手・兩縣下より南方は甲府・静岡・神奈川・千葉の諸縣に亘り震央附近にては弱震(弱き方)なり、

水戸・横須賀・宇都宮・福島・筑波山にて微震を感じたり、

此の附近よりは本月五日二十三時頃六日零時頃、二十三日十八時頃にも小區域地震あり、

大正十一年		六月二十一日		二十時十七分		顯著		志摩南方沖		一三七・〇 三四・一	
八月九日	六月二十五日	四月六日	四月二十五日	七月二日	七月六日	七月二日	七月六日	八月十一日	八月十一日	八月十一日	八月十一日
時七	時四十五	時七	時四十五	時二十九	時四十分	時二十九	時四十分	時十四	時十四	時十四	時十四
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
茨城	茨城	茨城	茨城	花	花	花	花	鹿	鹿	鹿	鹿
海道	海道	海道	海道	蓮	蓮	蓮	蓮	島	島	島	島
附近	附近	附近	附近	沖	沖	沖	沖	灘	灘	灘	灘
一四〇・〇〇	一四〇・〇〇	一三二・一	一三二・一	一四二・五	一四二・五	一四二・五	一四二・五	一四一・四	一四一・四	一四一・四	一四一・四
三六・〇〇	三六・〇〇	三三・八	三三・八	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三
關東地方に感覺あり、足尾・宇都宮熊谷は弱震(弱き方)なり	關東地方に感覺あり、足尾・宇都宮熊谷は弱震(弱き方)なり	震央附近及廣島管内に地鳴を伴ひたり廣島は弱震(弱き方)なり	震央附近及廣島管内に地鳴を伴ひたり廣島は弱震(弱き方)なり	強震(弱き方)は石巻にして弱震は水澤同(弱き方)は秋田・福島・横須賀にして震域釧路より沼津・甲府・新潟に亘る一帯なり、而して石巻・福島・宮古にては地鳴を伴へり	強震(弱き方)は石巻にして弱震は水澤同(弱き方)は秋田・福島・横須賀にして震域釧路より沼津・甲府・新潟に亘る一帯なり、而して石巻・福島・宮古にては地鳴を伴へり	強震(弱き方)は石巻にして弱震は水澤同(弱き方)は秋田・福島・横須賀にして震域釧路より沼津・甲府・新潟に亘る一帯なり、而して石巻・福島・宮古にては地鳴を伴へり	強震(弱き方)は石巻にして弱震は水澤同(弱き方)は秋田・福島・横須賀にして震域釧路より沼津・甲府・新潟に亘る一帯なり、而して石巻・福島・宮古にては地鳴を伴へり	父島にて緩漫に感ぜり、微動計には日本全國に記録せり、大分は弱震なり、	父島にて緩漫に感ぜり、微動計には日本全國に記録せり、大分は弱震なり、	父島にて緩漫に感ぜり、微動計には日本全國に記録せり、大分は弱震なり、	父島にて緩漫に感ぜり、微動計には日本全國に記録せり、大分は弱震なり、

大正十一年

六月二十一日 二十時十七分

顯著

志摩南方沖

一三七・〇
三四・一

十八日二十時十四分一回の小區域地震を發生し此の震動に續きて發せらるものなり、有感區域は三重・奈良・大阪・京都・愛知・和歌山・福井・滋賀の諸縣及四國・中國の一部に亘り、津・八木・京都・滋賀・岐阜管内には地鳴ありたり、津・福井・彦根は弱震なり、

關東地方全部に感覺し、東京・横濱・横須賀・熊谷・宇都宮弱震(弱き方)なり、

強震(弱き方)は石巻にして弱震は水澤同(弱き方)は秋田・福島・横須賀にして震域釧路より沼津・甲府・新潟に亘る一帯なり、而して石巻・福島・宮古にては地鳴を伴へり

父島にて緩漫に感ぜり、微動計には日本全國に記録せり、大分は弱震なり、

震央附近及廣島管内に地鳴を伴ひたり廣島は弱震(弱き方)なり

九月二日		二十七日	
四日	時十五分	四日	時二十八分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四四・二二	一四四・二二	一四四・二二	一四四・二二
二四・五	二四・五	二四・五	二四・五
大正九年六月五日のものに次ぐ地震にして死傷八人全壊半壊家屋三十六戸なり、臺北強震(弱き方)、臺中・花蓮港は弱震、石垣島は弱震(弱き方)なり而して餘震の頻繁なること甚しく九月中に於て有感覺七十七回、無感覺は千五百七回に達せり、	石巻・福島・水戸・甲府・宇都宮・筑波山にて微震を感ぜり、	餘震、	餘震、
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
五	時四十七分	五日	時四十七分
磐城沖	稍顯著	磐城沖	稍顯著
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
七	時十一分	七日	時十一分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
八	時五十六分	八日	時五十六分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十五	時三十一分	十五日	時三十一分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十七	時四十四分	十七日	時四十四分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十七	時四十二分	十七日	時四十二分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十七	時二十二分	十七日	時二十二分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十七	時五十三分	十七日	時五十三分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十七	時五十九分	十七日	時五十九分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇
十八	時二十分	十八日	時二十分
臺灣大南澳沖	被害あり	臺灣大南澳沖	被害あり
一四一・五	一四一・五	一四一・五	一四一・五
三七・〇	三七・〇	三七・〇	三七・〇

大正十一年		九月二十三日		十五時三十六分		稍顯著		鹿島灘	
十月二十九日	七時三十分	臺灣大南	沖	一四〇・八	宇都宮・足尾は弱震、水戸・筑波山は弱震(弱き方)なり、	餘震、			
十月六日	一時四十八分	房總半島中部	沖	一二二・二	震央附近にては振り時計止まる程度なり關東一圓に感覺せり、	餘震、			
十月六日	十二時十二分	臺灣大南	沖	一四〇・一	九月二日の餘震にして十月中には其餘震回数有感覺の分二十八回を算し無感覺地震は五百二十三回に達せり、	餘震、			
十月十二日	七時七分	〃	〃	一二二・二	餘震、				
十月十四日	十二時二十六分	〃	〃	一二二・二	餘震、				
十月十四日	十六時三十九分	〃	〃	一二二・二	餘震、				
十月十五日	八時四十五分	〃	〃	一二二・二	餘震、				
十月二十三日	十五時二十五分	日高國西南	沖	一二二・二	北海道の大部に感覺ありたり、				
十月二十五日	六時二十二分	千島列島附近	沖	一四二・一	北海道及千島一帯に感じたり、				
十月二十七日	十時五分	襟裳岬南方沖	沖	一四三・四	帶廣は弱震(弱き方)なり、				
十月二十七日	二十三時二十三分	大南	沖	一二二・二					
十一月一日	十八時四十五分	茨城	沖	一四〇・〇	關東一圓に感覺す震央附近弱震(弱き方)なり、				
十一月五日	三時十九分	水海道附近	沖	三六〇・〇					
十一月五日	三時十九分	臺灣大南	沖	一二二・二					

五	日五	時十六分	稍顯著	千原町附近	一四〇・五 三五・七
十	日二	時二十九分	〃	鹿島灘北部	一四一・〇 三六・七
十一	日十三	時三十四分	南米智利北部海岸の破壊的地震にして本邦微動計及驗潮器に記録す、		
十五	日二十	時三十四分	稍顯著	茨城縣 水海道附近	一四〇・〇 三六・〇
十六	日八	時三十一分	〃	帶廣附近	一四三・〇 四二・九
十九	日三	時五十六分	〃	臺灣大南湧沖	一二二・二 二四・三
十二月二	日十二	時四十六分	〃	花蓮港沖	一二一・九 二四・一
七	日十六	時十七分	〃	長崎縣諫早附近	一三〇・二 三二・八
八	日一	時五十分	顯著 (被害あり)	長崎縣千々石灣	一三〇・一 三二・七

關東地方全部・福島・山梨の大部に亘りて感覺あり震央附近にては強震(弱き方)なり、東京にては微震なり、

關東一圓に感ず、

九州の大半及廣島にて感ず、

激震區域幸に大部分海中にありしに雖も死者二十七名に達せり、被害の著しきは島原半島南部の有家有馬・串山・加津佐・小濱等の諸村にして略南東より北西に連れる線にあり、而して此等諸村の南方なる口ノ津、北方島原・千々石等の町村は被害程度著しく輕微なり、長崎縣下島原半島の被害は左表の如し、

地名	死者及傷者	全壞家屋	半壞家屋
山田村	1	4	6
愛野村	1	9	16
千々石村	1	3	19
小濱村	7	92	385
北串山村	1	23	56
南串山村	3	44	87
加津佐村	4	35	90
口之津村	3	3	30
南有馬村	5	52	90
北有馬村	29	196	191
西有家村	4	96	106
東有家村	10	71	115
堂崎村	1	10	19
布津村	1	3	13
深江村	1	2	1
計	65	643	1424

又熊本縣下の被害は下の如し

郡名	土地龜裂及崩壞	壁破損	道路、橋梁、突、破損	家屋破損
宇土	1	1	1	1
天草	9	3	8	1
八代	9	1	2	2
計	19	4	11	4

此地方は既に十月二十三日に小區域地震あり七日十六時には島原半島を中心として九州の大半及び廣島にて感ぜしが更に引き續き微震あり遂に本強震となりたり、震源は千々石灘の東岸南串山村附近の海上にあるもの如し、其後引續きて強震ありて長時測候所月報によれば十二月中無感覺地震回数數千六百八十五回有感覺百十四回に達せり、

八日二時十分	稍顯著	千々石灣	一三〇・七一	餘震、
八日十一時二分	顯多(多)少被(害)著	千々石灣	一三〇・八一	第二回目の強震にして家屋倒壞七十に及び死者三名、この地震後急に餘震増加せり、
八日十四時十七分	稍顯著	〃	一三〇・八一	餘震、
九日七時三十三分	顯著	陸奥東方沖	一四二・九二	陸奥・陸中・北海道南海岸にては強震(弱き方)にして震源海中のため被害なし、
十日四時二十分	稍顯著	〃	一四三・九九	
十五日四時三十四分	〃	日高國南西沖合	一四二・〇〇	
二十六日十五時二十一分	〃	陸奥沖	一四二・九五	

大正十一年 十二月二十七日	十八時三十分	稍顯著	千葉 木更津附近	一三九・九 三五・四	關東全部に有感覺なり、東京・横濱は弱震(弱き方)なり、
三十日	時十三分	〃	日高國南西沖合	一四二・〇 四二・〇	
三十一日	十六時二十一分	顯著	擇捉島北東沖合	一五〇・二 四五・八	

大正十二年 一月三日	日七	時四十二分	稍顯著	花蓮港沖	一二二・〇 二四・二	九州及四國の西部地方に感ず、大分は弱震(弱き方)なり、同上、
十一日	二十一時七分	〃	日向灘北部	一三一・九 三二・六		
十二日	〇時五十分	〃	〃	一三二・八 三二・〇		
十四日	十四時五十一分	顯著	茨城 水海道附近	一四〇・〇 三六・〇		
二十六日	二十一時三十四分	稍顯著	宇都宮附近	一三九・八 三六・七	有感覺區域關東地方及び伊豆・静岡・山梨・長野・新潟・福島・宮城の諸縣に亘り、震央附近にては地鳴を伴ひたる強震を感ぜり、熊谷・銚子・沼津・横須賀・横濱は弱震にして筑波山・水戸・宇都宮・甲府・東京は弱震(弱き方)なり、	
二十七日	十四時三分	〃	磐城南	一四〇・七 三七・四		

栃木・茨城・神奈川・千葉・埼玉・群馬・山梨の全部及静岡・福島・長野のの一部に感ず、筑波は(弱震)にして甲府・水戸・東京・宇都宮・横濱は弱震(弱き方)なり、

大正十二年		四月十四日		二十時十七分		稍顯著		紗那南方沖		一四七・八 四三・四	
	十七日	〇時	九分	〃	〃	日高附近	〃	〃	〃	一四二・六 四二・〇	
	二十七日	十六時	十五分	〃	〃	三陸沖	〃	〃	〃	一四二・五 四一・二	
	二十九日	二十一時	二十二分	〃	〃	秋田沖	〃	〃	〃	一三八・六 三九・九	
五月	四月	十九時	四十分	稍顯著 多少被害		臺南會文地方		〃	〃	一二〇・二 二三・二	
	五日	一日	三十四分	顯	著	アラスカ附近	〃	〃	〃	一四一・七 四二・三	
	五日	二日	三十分	稍	顯著	膽振灣北東部	〃	〃	〃	一三九・四 三五・三	
	六日	二十時	二十五分	〃	〃	相模灘	〃	〃	〃	一四一・七 三六・二	
	七日	十二時	二分	〃	〃	鹿島灘	〃	〃	〃	一四一・〇 三七・〇	
	七日	二十二時	十分	〃	〃	磐城海岸	〃	〃	〃	一四一・〇 三七・〇	
	二十四日	七時	四十一分	顯	著	アリエーション近	〃	〃	〃	一四一・三 三六・八	
	二十六日	十二時	十二分	稍	顯著	鹿島灘	〃	〃	〃	一四一・三 三六・八	

震央附近にて弱震なり、

秋田は弱震(弱き方)なり、

土壩造家屋全潰一棟、壁の龜裂、建物の傾斜等ありたり、臺灣大部及澎湖島にて感じ、臺南は弱震(弱き方)なり、

本邦の微動計は全部記録せり、

神奈川・東京の兩府縣及静岡・山梨
埼玉・千葉の諸縣の大部に亘りて
感覺あり、横濱・横須賀は弱震、熊
谷・東京・布良・甲府は弱震(弱き方)
なり、而して沼津は微震なり、
此地方よりは五月中に地震頻發し
其數、百餘回に達せり、
關東の大部及山梨・福島の縣下に
亘り宇都宮・銚子・水戸にては弱震
(弱き方)なり、
震域は北は岩手・山形、新潟より南
は千葉・神奈川・静岡の諸縣に亘る
宇都宮及銚子は弱震(弱き方)なり
本邦の微動計は全部記録せり
震域稍や廣く關東全部・静岡・山梨
新潟・福島・諸縣に及べり而して

大正十二年		六月二十二日		七月二日		八月十五日		八月二十日	
二十時四十八分	十五時四十八分	二十時四十八分							
顯著被害									
支那西藏附近									
一四〇〇・二									
父島北々西沖									
一四二・七									
日高附近									
一四二・三									
臺東北東沖									
一三三・二									
日高國西方沖合									
一四二・〇									
種子島附近									
一三一・一									
八丈島									
一三七・五									
西南西沖合									
一三三・三									
日高國西方沖									
一四一・八									
カムチャツカ									
一四二・一									
東方沖									
一三八・六									
那覇附近									
二五・五									
膽振北部									
一四二・二									
茨城縣北部									
一四〇・八									
三六・九									

震央附近にて家屋の倒壊及死傷者あり、本邦微動計の全部に記象せり、父島にて微震なり、

北海道全島に感じ帯廣にては弱震なり、

垣春・石垣島に弱震を感じり、

帯廣にては弱震(弱き方)にして北海道全部に感覺せり、

震央は種子島東海岸にあり震域は南西諸島の北半部及九州全島にして強震區域は鹿兒島管内全部なり然れども被害は種子島に僅に有りしのみなり、

前記震央より稍北方に偏れるに發し、鹿兒島にて弱震なり、被害なし、

此の地方より發する地震の特性として例により關東地方の一部に人身感覺ある異常震域を成す、

北海道の大半に於て微震を感じり、

本邦の大半の微動計に記象せり、

二十四日十時十四分	稍顯著	磐城東部	一四〇・七 三六・五	福島は弱震なり震域北は水澤町より南方は甲府附近に至る一帯なり	
二十七日二十時十五分	(多少被害)	臺灣中部	一二一・一 二四・二	臺中の北東方に發せしものにして震央附近に多少の被害あり、臺中・花蓮港は弱震なり震域臺灣全島及石垣島に及べり、	
九月一日五日	時三十四分	稍顯著	磐城沖	一四一・四 三七・二	相模灣内に大地變を生じ、東京・神奈川・千葉・埼玉・静岡・山梨の六府縣下に亘りて著大の被害を生じ、震後、東京・横濱・横須賀・小田原
九月一日十一時五十八分	(顯著被害)	關東大地震	一三九・三 三五・三	相模灣内に大地變を生じ、東京・神奈川・千葉・埼玉・静岡・山梨の六府縣下に亘りて著大の被害を生じ、震後、東京・横濱・横須賀・小田原	

を初め泰野・厚木・眞鶴・鎌倉・船形の各町村に於て火を發し東京・横濱・小田原の如きは多數の死者を生じ、死者の總數十萬潰家及燒失家屋三十九萬に及ぶ、又相房沿岸には數十艘乃至二・三米に及び隆起及陥落を生じ、震後直に津浪を生じ伊豆の伊東町を始めとし熱海・片浦・鎌倉・稻取等に被害あり、尙片浦にては大山崩れによりて米神及根府川部落を埋没せり箱根東部大山等にも山崩れの被害あり、有感覺震域南は中國より北は北海道南端迄に亘れり、

一日十五時十九分	顯著	九十九里ヶ濱沖	一四〇・六 三五・五	震央附近に於ては弱震(強き方)なり、震域は西は福井・彦根より新潟福島に亘る
一日十六時三十八分	(顯著被害)	甲府山中地方	一三八・九 三五・五	震域大阪・八木より北方福島・新潟に至る一帯にして沼津・飯田は強震、東京にては強震(弱き方)なり震央地方多少被害あり、
二日十一時四十六分	(顯著多少被害あり)	勝浦沖	一四〇・四 三五・一	震域西は四國より北方は秋田に至る一帯に盛じ勝浦地方にては一日十一時五十八分の地震より強く感じ多量の被害を生じ又震後直に小津浪を伴ひし津浪の害は無かり

大正十二年		九月		日		時		顯著		被害多少	
				十八	時	二十七	分	顯著		九十九	里ヶ濱
				二十二	時	九	分	〃		三九	山北附近
				二十三	時	十六	分	〃		三九	關本附近
				二	時	三十二	分	〃		三九	野島岬沖
				八	日	十八	時九分	〃		三九	山梨縣谷村附近
				十	日	十一	時一分	顯著	被害あり	三九	伊豆大島附近
				十四	日	十五	時三十三分	顯著		三九	茨城縣古河附近
				十五	日	十二	時四十二分	稍顯著		三六	山梨縣笹子附近
				十七	日	十二	時四十一分	〃		三八	八丈島南西沖
				二十四	日	二十二	時二十六分	〃		四〇	安藝海東部
				二十六	日	十七	時二十四分	顯著	被害あり	三九	伊豆大島
				二十九	日	五	時五十六分	稍顯著		四	大阪灣北部
				二十九	日	十二	時一分	〃		八	山梨縣小沼附近
十	月	二	日	十	時	二十五	分	〃		九	相模西部

高知・廣島・弱震(弱き方)なり、
 震域西は紀伊半島より北方は秋田盛岡に亘り八丈島にても有感覺なり、震央附近強震にして大島東岸に被害を生ず、
 大阪にて弱震を感じ震域は岡山・香川・徳島・和歌山・滋賀・奈良・京都・大阪・兵庫の諸府縣なり、
 東京にて弱震なり震域は關東一圓に亘れり、
 伊豆稻取下河津附近に多少被害を生じ震域は彦根・高山・松本・熊谷以南なり、
 震域關東全部及山形・福島・長野の一部にして熊谷は強震宇都宮・足尾は弱震なりき、

二	日十一時六分	稍顯著	東京附近	一三九・七 三五・七
三	日二十三時八分	〃	宇都宮附近	一三九・八 三六・五
三	日二十三時二十一分	〃	別府灣附近	一三一・六 三三・三
四	日〇時五十四分	顯著	相模西部	一三九・二 三五・四
五	日二十二時五十分	稍顯著	相模西部	一三九・〇 三五・四
八	日八時四十一分	〃	茨城縣附近	一四〇・〇 三六・〇
九	日十五時十四分	〃	宇都宮附近	一三九・八 三六・六
九	日二十時二十三分	顯著	岩手縣花卷附近	一四一・〇 三九・二
十七	日三時四分	稍顯著	甲斐山中湖附近	一三八・九 三五・五
二十二	日四時四十六分	〃	〃	一三八・九 三五・五
二十三	日七時十一分	〃	磐城東部	一四〇・八 三七・三
二十三	日二十二時二十一分	〃	茨城縣笠間附近	一四〇・五 三六・五
二十八	日十一時二十五分	〃	大和北部	一三六・一 三四・五

東京にて弱震(弱き方)なり、
熊谷・日光・小名濱は弱震なり、
大分は弱震(弱き方)なり、
沼津・甲府・熊谷は強震(弱き方)にして東京・布良は弱震なり震域は新潟・福島より南は八丈島西は大坂・奈良・福井に至れり、
丹澤山附近に發し關東全部及福島長野・三重の一部に感じ沼津及熊谷は弱震なり、
震央附近は弱震(弱き方)なり、
宇都宮は弱震(弱き方)なり、
震域は北東方は根室・釧路より南西方は武蔵・甲斐に亘りて感覺あり、福島石巻・秋田は弱震なり、
震域は關東中部地方及三重・滋賀縣下に亘れり甲府は強震(弱き方)沼津・東京・濱松・飯田は弱震なり、
沼津・東京弱震(弱き方)にして右記のものよりは震域狭し、
震央附近にて弱震(弱き方)なり、
震央附近にて弱震(弱き方)なり、

二十日十三時五十三分	稍顯著	鹿兒島縣	一二八・五	震央附近弱震(弱き方)なり、
二十二日十六時二十一分	〃	大島南西沖	二七・五	
二十三日十時十三分	〃	花 蓮 港 沖	一二二・二	震央附近弱震(弱き方)なり、
二十三日十一時三十二分	〃	相 模 灣	一三九・二	震央附近弱震(弱き方)なり、
二十三日十一時三十二分	顯著	相模藤澤附近	一三九・三 三五・四	震央附近は強震にして沼津・布良・熊谷は弱震なり、震域北は新濱・福島より西は京都・和歌山に達し南は八丈島に及ぶ、
二十六日二時二分	稍顯著	花 蓮 港 沖	一二二・八 二三・八	震央附近弱震(弱き方)なり、
二十七日十二時二十一分	〃	日 向 洋	一三二・〇 一三二・〇	九州大部に亘りたれども微震を感じのみなり、
十二月二日二十二時十八分	〃	志 摩 沖	一三七・〇 三四・二	北は福井より南は潮岬迄感覺あり震央附近弱震(弱き方)なり、
五日八時四十分	顯著	土佐灣東部	一三三・八 三三・三	震域四國・中國・近畿及び九州北部朝鮮釜山に亘る、高知縣下にては強震を感ず、被害なし、
十二日十三時三分	稍顯著	燧 灘	一三三・一 三四・一	震域は四國・中國及び和歌山・大分に亘り、高知・四阪島・新居灣・吳は弱震なり、
十九日八時十六分	〃	能登西方沖	一三五・八 三七・〇	伏木は弱震(弱き方)にして金澤・福井は微震なり、
十九日二十二時四十九分	〃	相 模 東 部	一三九・四 三五・五	關東全部に有感覺なり、
二十日二十一時四十六分	〃	天草北西沖	一三〇・〇 三二・六	
二十四日十二時四十分	〃	甲斐山中湖附近	一三九・四 三五・〇	震域北は新潟・福島より西方は滋賀縣に至る、東京・沼津・濱松・甲府は弱震(弱き方)なり、

大正十二年 十二月二十六日	時二十二分	稍顯著	鹿兒島附近	一三〇・五 三一〇・七	<p>震域北は釧路より南西は長野・愛知縣下に亘り水戸・銚子・福島・熊谷・東京は弱震なり、 震域九州全部より北は廣島に亘り宮崎にて弱震(弱き方)なり、 程度前々略等し、 關東の大部にて微震を感じり、</p>
二十七日	二十三時三十九分	顯著	鹿島灘	一四一・〇 三六・二	
二十八日	二十一時四分	稍顯著	日向灘	一三二・一 三三・二	
二十八日	二十一時八分	〃	〃	一三二・〇 三二・二	
三十一日	十一時二十二分	〃	三浦半島	一三九・七 三五・二	

大正十三年 一月十五日	時五十一分	顯著 被害	丹澤山附近	一三九・二 三五・五	<p>丹澤山北麓より南東に渉る一帯を震央とし相模川・酒匂川流域被害殊に多く昨年の關東大地震後新築せし家屋さへ倒潰せしものあり、死者十九名傷者六百四十名を出し、東京市内にても全潰家屋二十五、半潰七十八軒に達す 甲府は烈震、熊谷・横濱・宇都宮・東京は強震、館山・沼津・足尾・長野は強震(弱き方)、松本・伏木・銚子・筑波・福島・濱松・水戸・前橋・岐阜・敦賀・小名濱は弱震なり、而して震域は北は北海道南海岸地方より西は島根・兵庫・徳島縣に亘る、 震央附近弱震なり、</p>
十五日	時五分	稍顯著	常陸中部	一四〇・五 三六・二	

月 日

發 震 時 分
(中央標準時)

震 度
震 央 地 名

東 經
北 緯

記 事

十五日九	時七	分	稍顯著	筑波山南西麓	一四〇・一
十五日七	時四十六分		//	那珂川下流域	一四〇・四
十六日四	時二十二分		顯著	磐城中部	一四〇・一
十九日十五	時四十六分		稍顯著	富士山北東麓	一三八・八
二十一日〇	時三十四分		//	相模厚木附近	一三九・三
二十二日十九	時三十五分		顯著	陸奥東方沖	一四二・七
二十七日十七	時三十八分		//	陸中遠野附近	一四一・六
二月一日二十三	時三十分		稍顯著	筑波山附近	一四〇・〇
二月二日十六	時五十四分		//	//	一四〇・二
三月三日二	時二十八分		//	天草西方遙の沖	一二九・六
三月三日七	時二十五分		顯著	鹿島灘	一四一・八
十日十八	時二十五分		稍顯著	紀伊水道北部	一三五・四
十二日二	時四十九分		//	東京西方	一三九・四
二十二日七	時四十三分		//	多摩川流域	一三五・七
二十二日十	時四十三分		//	若狭灣附近	一三五・八
			//	筑波山附近	一四〇・〇

震央附近にて弱震なり、

常陸及福島・千葉縣に亘る、

震域は關東全部及本州東北地方一般にして震央附近にては強震(弱き方)なり

東京・松本・飯田・沼津・甲府にて微震を感じ、甲府・東京にて弱震(弱き方)なり、

北海道・南海岸地方及奥羽地方にて感ぜり、

震央地方にて強震(弱き方)なれども被害なし、震域北海道南部より水戸附近に亘れり、

震域は對馬及九州西半部なり長崎熊本・佐賀にて弱震(弱き方)なり、震域は北は宮城縣より南西は長野及静岡・山梨縣下に及ぶ、鈍子にては弱震なり、

東京は弱震(弱き方)なり、

東京及常陸地方のみに感ず、

大正十三年
三月五日

十二日二時十六分	十日二十三時五十六分	七日四時四十一分	三日十一時三十分	四月一日十六時四分	二十五日十九時二十九分	二十四日九時五十二分	二十三日二十二時四十六分	二十日十九時五十一分	十七日五時五十一分	十五日十九時三十二分	八日十八時七分	日十二時七分
後志沖合	〃	磐城東部	八丈島南西方沖	日向灘南部	襟裳岬附近	豐後水道北部	〃	濱九十九里沖	〃	樺太西岸 工ストル附近	宮城縣南部	八王寺附近
一四三・七	一四〇・六	一三七・〇	一三九・〇	一三一・八	一四三・二	一三二・一	一四一・〇	一四一・〇	一四二・一	一四二・一	一四一・〇	一三五・七

(顯著多少)
被害

南は茨城・栃木・群馬縣より北は青森に亘り震央附近は弱震程度なり此の地方にては三月中に地震多數に發現せり、「エストル」北名好間を震央とし隨所に雪崩を生じ北名好にては家屋傾斜、壁落ち負傷者二名あり、エストル村にては家屋倒壊四戸あり、

餘震、

宇和島・松山・多度津・下關及廣島管内に人身感覺あり、

例により關東地方に有感覺なす異常震域なり
茨城・栃木・福島・宮城縣下に亘れり
茨城・栃木・埼玉・福島の諸縣に亘れり

五月	
十三日	四時八分 稍顯著
二十日	一時十二分 //
二十六日	三時七分 //
二十七日	九時十四分 //
五月七日	一日十一時一分 顯著
十日	十二時十七分 //
十四日	十七時六分 稍顯著
十五日	十六時四十三分 //
二十日	十八時五十一分 //
二十三日	三時八分 顯著
二十五日	十二時九分 稍顯著
二十八日	十八時五十三分 顯著
三十一日	二十一時二分 //
三十一日	二十一時四分 //

遠州灘南方沖	一三七・七
筑波山附近	一四〇・二
八丈島南東	三六・二
遙の沖合	一四四・三
釧路沖	三〇・四
比律賓附近	一四六・〇
本州北東遙なる沖 (及スカロラ海溝)	一四一・八
茨城縣古河附近	一三九・八
磐城東部	三六・一
陸中國東部	一四〇・九
膽振國北部	一四一・九
甲斐國南東部	一四二・七
北海道南方海上	一四二・七
鹿島灘	一四二・七

全國大半の微動計にて記錄せり、
 全國の微動計にて觀測せり、
 小名濱・東京・宇都宮・熊谷は弱震
 (弱き方)なり、
 震域北は宮城より南西方は山梨縣
 に亘る、宇都宮・熊谷は弱(弱き方)
 なり、
 震域北海道及奥羽地方に亘れり、
 而して震央附近の管内にては強震
 なり、帶廣及札幌・函館・室蘭・釧路
 は弱震なり、
 甲斐南東部の國境山岳地方に發し
 關東大部・山梨・静岡・長野の諸縣
 に感ぜり、沼津・熊谷は弱震なり、
 北海道及石ノ巻管内の一部は震度
 弱震なり、
 東京弱震・銚子は強震(弱き方)な
 り、
 引き續きて發し銚子は強震(弱き
 方)なり、此外同時三分にも地震

大正十三年		五月三十一日		六月三日		七月一日	
二十一日	二十七日	二十一日	二十七日	十一日	十二日	一日	一日
時三十七分	時三十七分	時四十二分	時四十二分	時四十一分	時三十一分	時三十一分	時二十八分
顯著	顯著	稍顯著	稍顯著	顯著	顯著	顯著	顯著
鹿島灘	伊豆半島南方沖	磐城北東沖	山梨縣東部	安藝海東部	霞ヶ浦西部	襟裳東沖合	鹿島灘北部
一四一・二 三六・四	一三九・〇 三四・〇	一四一・二 三七・八	一三八・七 三五・六	一三三・〇 三四・二	一四〇・二 三六・〇	一四四・五 四一・七	一四一・〇 三六・九
ありて銚子は強震(弱き方)なり即ち此の三つの地震は連続して發せるものなり、	此震域は八丈島附近の地震の場合北は福島より布良・沼津の海岸一帯なり、右は弱震(弱き方)他は微震なり、	水澤・石ノ巻は弱震(弱き方)なり、	廣島附近より四國の北半部にて感覺せり、	震域關東全部・福島・山梨・静岡縣下に亘り宇都宮は強震(弱き方)、東京・水戸・筑波・熊谷は弱震なり、	震域千島・擇捉島より南西方は山梨縣に亘る、根室は強震(弱き方)にして、紗那・水澤・釧路等は弱震なり、	關東全部及磐城に亘りて感覺あり銚子弱震、東京・熊谷は弱震(弱き方)なり、	臺灣全島及石垣島にて感ぜり、

八月六日	二十三日	十三日	十五日	十五日	十五日	十六日	十七日	二十五日	二十九日	九月四日	六月五日	十三日
二十三日二十二分	十九分	三十三分	五十三分	二分	二十七分	二十三分	四十六分	三十一分	五十分	二十四分	二十九分	五十九分
稍顯著	顯著	稍顯著	顯著	顯著	稍顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著
銚子附近	大和國南部	鹿島灘	鹿島灘	磐城南	鹿島灘	豐後水道南部	霞ヶ浦附近	津輕海峽東部	紀伊水道			
一四〇・五 三五・七	一三五・五 三四・〇	一四一・二 三六・六	一四一・二 三六・六	一四一・八 三六・二	一四〇・四 三七・〇	一四一・七 三六・五	一四一・五 三六・三	一三二・三 三二・八	一四〇・一 三六・一	一四一・五 四一・五	一三四・九 三四・〇	
<p>東京・銚子は弱震、布良・沼津・甲府・熊谷は弱震(弱き方)なり、震央は大和南部の西側なる大和、紀伊の國境附近にあり震域は近畿四國・中國の大部に及び、和歌山・徳島・多度津・吳・四阪島は弱震なり、前記き同一震央より發せり、石巻より南方は沼津に亘りて感覺あり、北は釧路より南西は徳島に亘る一帯に感ぜり強震(弱き方)は福島にして水戸・銚子・東京・沼津・熊谷・甲府・宇都宮・盛岡は弱震なり、</p> <p>四國・九州及中國の大部を震域とし宇和島・吳・足摺は弱震なり、關東全部に亘り、銚子・東京は弱震(弱き方)なり、</p>												

大正十三年

九月十四日十九時四十分	十月三十一日三時三十一分	十月五日二十二時四十六分	十月八日二十三時一分	十月十三日十九時六分	十月二十三日二十一時四十七分	十一月二日二十時二十四分	十一月八日十一時五十七分	十一月二十四日八時二十八分	十一月二十六日二時二十七分
稍顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著	顯著
鹿島灘北部	鹿島灘北部	鬼怒川流域	九十九里ヶ岸	沿	印旛沼附近	鬼怒川流域	印旛沼附近	臺灣高雄附近	膽振灣
三六・三	四〇・六	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三	三六・三
震域北は釧路・秋田・新潟より福井 彦根・津に亘り震央は水戸さ石岡 さの中間に位す、熊谷は強震(弱 き方)、足尾・鉦子・横濱・東京・布良 金山・沼津・宇都宮は弱震なり、 前回さ同い震央なり、熊谷にては 弱震なり、 東京は弱震(弱き方)なり、	熊谷・甲府・宇都宮は弱震、足尾・横 濱・東京・水戸は弱震(弱き方)な り、 横濱・布良・東京は弱震なり、震 央は千葉縣一ノ宮の北方約十軒な り、 東京は弱震(弱き方)を感じ、 熊谷・宇都宮・東京・足尾は弱震な り、震央は結城の東方なり、 宇都宮・熊谷にて弱震(弱き方)な り、震央は下妻の東方なり、 鉦子・横須賀は弱震(弱き方)なり、 臺南にて弱震(弱き方)を感じ全島 及び石垣島に微震を感じ、 室蘭・函館・帶廣にて弱震を感じず、 震域は名古屋・津・八木・飯田・敦 賀・豊岡地方に亘り彦根及京都に て弱震(弱き方)なり、 震域は釧路より奥羽地方さす、水 澤及釧路は弱震(弱き方)なり、								

二十八日十時二十五分	稍顯著	紀伊水道	一三四・九	和歌山縣・徳島縣及び淡路に感ず、
三十日十時二十分	//	豊後水道南部	一三三・一	震域は大分・宮崎・鹿兒島縣下に亘る
十二月十四日五時二十四分	顯著	本州中部	一三八・八	震域甲府より北は北海道釧路に亘りて感覺し金山は弱震、横須賀は弱震(弱き方)其他は微震なり
二十七日二十時二十二分	//	十勝沖合	一四四・三	震域は北海道より南は沼津に及ぶ根至は強震、帶廣・釧路・盛岡は弱震なり
二十九日七時五十六分	//	//	一四四・一	帶廣・釧路は弱震なり、震域は略前震さ等し、
二十九日二十一時四十四分	稍顯著	筑波山附近	一四〇・一	

大正十四年	月	日	發震時分 (中央標準時)	震度	震央地名	東經 北緯	記事
一月六日	〇	時二分	稍顯著	磐城洋	一四一・三	震域は石巻・熊谷・宮古及筑波附近なり	
九日	五	時五十一分	//	印旛沼附近	一四〇・三	震域甲府・沼津・前橋より宇都宮・水戸に及ぶ、東京及熊谷は弱震(弱き方)なり、	
九日	十三	時三十五分	//	荒川流域	一三九・五	東京・熊谷弱震(弱き方)なり、	
九日	十六	時二分	//	千葉縣木更津沖	一三九・九	東京・熊谷・横須賀は弱震(弱き方)なり、	
十日	二十一	時二十二分	//	磐城沖	一四一・四	震域は北は盛岡、南は福島に至る、	
十八日	二十一	時七分	顯著	擇捉島 東方遙なる沖	一五一・七 一四五・〇	千島・根室にて微震を感じたるものにして、微動計觀測は全國に及べり、	

大正十四年
一月二十二日

二十九時十七分	稍顯著	茨城縣涸沼西方	一四〇・四
二十七時二十六分	顯著	茨城縣	三六・三
二十八日十三時六分	顯著	北海道附近	一四〇・三
二十四時二十五分	稍顯著	釧路東方沖合	一四六・一
二十二時三十分	顯著	釧路南東沖	一四二・一
十四時十九分	顯著	釧路南東沖	一四七・二
十四時四十八分	顯著	釧路南東沖	一四六・三
十一時一分	稍顯著	鹿島灘	一四一・二
十三日十六時十三分	顯著	鬼怒川流域	一四六・五
十四日九時四十二分	顯著	川流	一四〇・五
十五日十六時四十八分	顯著	鹽屋岬	一四一・一
二十日十時〇四分	顯著	東方遙の沖	一四五・五
一月一日二十一時二十五分	顯著	臺東北東沖	一三九・九
一月四日十五時五十二分	顯著	荒川附流	一三五・九
一月十三日三時二十九分	顯著	日向灘	一三五・九

熊谷・東京・水戸は弱震なり、
熊谷・横須賀・筑波山は弱震なり、
北海道の一部にて微震を感じり、
釧路に於て微震を感じり、
釧路にて微震を感じり、
同上、
北海道より關東に亘りて人身感覺あり震源海底なりし故被害なきも大規模の地震なり、
銚子は弱震、横濱・東京は弱震(弱き方)なり、
震域關東全般・宇都宮・水戸・熊谷は弱震(弱き方)なり、
前震より稍大なり、弱震は宇都宮・熊谷にして弱震(弱き方)は横濱・筑波山・足尾・水戸・東京なり、
震域は京畿一帯及び北陸地方に亘り京都及敦賀は弱震(弱き方)なり、
水戸附近に微震を感じり、
臺灣の大部に感ぜり、臺南にては弱震(弱き方)なり、
關東全般に亘りて人身感覺あり、
震域は九州及四國に亘り、震度、鹿兒島・高知にては弱震(弱き方)なり、

五月	四月
五月一日	四月十二日
五月三日	四月十七日
五月五日	四月十七日
五月七日	四月十七日
五月九日	四月十七日
五月十一日	四月十七日
五月十三日	四月十七日
五月十五日	四月十七日
五月十七日	四月十七日
五月十九日	四月十七日
五月二十一日	四月十七日
五月二十三日	四月十七日
五月二十五日	四月十七日
五月二十七日	四月十七日
五月二十九日	四月十七日
五月三十一日	四月十七日
六月一日	四月十七日
六月三日	四月十七日
六月五日	四月十七日
六月七日	四月十七日
六月九日	四月十七日
六月十一日	四月十七日
六月十三日	四月十七日
六月十五日	四月十七日
六月十七日	四月十七日
六月十九日	四月十七日
六月二十一日	四月十七日
六月二十三日	四月十七日
六月二十五日	四月十七日
六月二十七日	四月十七日
六月二十九日	四月十七日
六月三十一日	四月十七日
七月一日	四月十七日
七月三日	四月十七日
七月五日	四月十七日
七月七日	四月十七日
七月九日	四月十七日
七月十一日	四月十七日
七月十三日	四月十七日
七月十五日	四月十七日
七月十七日	四月十七日
七月十九日	四月十七日
七月二十一日	四月十七日
七月二十三日	四月十七日
七月二十五日	四月十七日
七月二十七日	四月十七日
七月二十九日	四月十七日
七月三十一日	四月十七日
八月一日	四月十七日
八月三日	四月十七日
八月五日	四月十七日
八月七日	四月十七日
八月九日	四月十七日
八月十一日	四月十七日
八月十三日	四月十七日
八月十五日	四月十七日
八月十七日	四月十七日
八月十九日	四月十七日
八月二十一日	四月十七日
八月二十三日	四月十七日
八月二十五日	四月十七日
八月二十七日	四月十七日
八月二十九日	四月十七日
八月三十一日	四月十七日
九月一日	四月十七日
九月三日	四月十七日
九月五日	四月十七日
九月七日	四月十七日
九月九日	四月十七日
九月十一日	四月十七日
九月十三日	四月十七日
九月十五日	四月十七日
九月十七日	四月十七日
九月十九日	四月十七日
九月二十一日	四月十七日
九月二十三日	四月十七日
九月二十五日	四月十七日
九月二十七日	四月十七日
九月二十九日	四月十七日
九月三十一日	四月十七日
十月一日	四月十七日
十月三日	四月十七日
十月五日	四月十七日
十月七日	四月十七日
十月九日	四月十七日
十月十一日	四月十七日
十月十三日	四月十七日
十月十五日	四月十七日
十月十七日	四月十七日
十月十九日	四月十七日
十月二十一日	四月十七日
十月二十三日	四月十七日
十月二十五日	四月十七日
十月二十七日	四月十七日
十月二十九日	四月十七日
十月三十一日	四月十七日
十一月一日	四月十七日
十一月三日	四月十七日
十一月五日	四月十七日
十一月七日	四月十七日
十一月九日	四月十七日
十一月十一日	四月十七日
十一月十三日	四月十七日
十一月十五日	四月十七日
十一月十七日	四月十七日
十一月十九日	四月十七日
十一月二十一日	四月十七日
十一月二十三日	四月十七日
十一月二十五日	四月十七日
十一月二十七日	四月十七日
十一月二十九日	四月十七日
十一月三十一日	四月十七日
十二月一日	四月十七日
十二月三日	四月十七日
十二月五日	四月十七日
十二月七日	四月十七日
十二月九日	四月十七日
十二月十一日	四月十七日
十二月十三日	四月十七日
十二月十五日	四月十七日
十二月十七日	四月十七日
十二月十九日	四月十七日
十二月二十一日	四月十七日
十二月二十三日	四月十七日
十二月二十五日	四月十七日
十二月二十七日	四月十七日
十二月二十九日	四月十七日
十二月三十一日	四月十七日
一月一日	四月十七日
一月三日	四月十七日
一月五日	四月十七日
一月七日	四月十七日
一月九日	四月十七日
一月十一日	四月十七日
一月十三日	四月十七日
一月十五日	四月十七日
一月十七日	四月十七日
一月十九日	四月十七日
一月二十一日	四月十七日
一月二十三日	四月十七日
一月二十五日	四月十七日
一月二十七日	四月十七日
一月二十九日	四月十七日
一月三十一日	四月十七日
二月一日	四月十七日
二月三日	四月十七日
二月五日	四月十七日
二月七日	四月十七日
二月九日	四月十七日
二月十一日	四月十七日
二月十三日	四月十七日
二月十五日	四月十七日
二月十七日	四月十七日
二月十九日	四月十七日
二月二十一日	四月十七日
二月二十三日	四月十七日
二月二十五日	四月十七日
二月二十七日	四月十七日
二月二十九日	四月十七日
二月三十一日	四月十七日
三月一日	四月十七日
三月三日	四月十七日
三月五日	四月十七日
三月七日	四月十七日
三月九日	四月十七日
三月十一日	四月十七日
三月十三日	四月十七日
三月十五日	四月十七日
三月十七日	四月十七日
三月十九日	四月十七日
三月二十一日	四月十七日
三月二十三日	四月十七日
三月二十五日	四月十七日
三月二十七日	四月十七日
三月二十九日	四月十七日
三月三十一日	四月十七日
四月一日	四月十七日
四月三日	四月十七日
四月五日	四月十七日
四月七日	四月十七日
四月九日	四月十七日
四月十一日	四月十七日
四月十三日	四月十七日
四月十五日	四月十七日
四月十七日	四月十七日

遠州灘遙の沖 一三七・三
支那雲南省 三三五・五
大支那府附近 一三六・二
龜山附近 三四・八
茨城附近 一三九・八
水海道附近 三六・一
鹿島灘 一四二・二
臺灣南方沖 二〇〇・二
震央は土浦附近なり、 一四〇・三
紀淡海峽 一三四・九
八丈島西方沖 一三八・二
金山沖 一四二・二
豐後水道北方 一三二・二
八丈島南西沖 一三八・七
浦賀水道 一三九・七

全國各地の微動計に感ぜり、支那大理府附近被害多し、近畿地方及び名古屋・岐阜・福井に感ぜり、熊谷・宇都宮にて弱震(弱き方)なり、震央は銚子の東北東百三十軒なり、震域は臺灣全島及澎湖島なり、恒春は強震臺南は弱震なり、震央は土浦附近なり、徳島は弱震(弱き方)にして和歌山・潮岬・洲本・岡山・彦根・多度津・福井は微震なり、異常震域を成して北關東より石巻に至る太平洋沿岸及尾張東半部に有感震なり、強震(弱き方)は金山弱震は横須賀・横濱・宇都宮・東京等なり、震域は東北地方及關東一圓並に北裏日本に亘れり、強震は金山にして宮古・石巻・秋田・水戸。山形は弱震なり、前記より少しく勢力弱し、松山・新居濱。吳は微震なり、例により異常震域を成し東京附近及三浦半島・石巻沿岸地方に感ぜり、關東一般に感ぜり横濱は弱震なり、布良は弱震(弱き方)なり、

大正十四年五月二十三日十一時九分

顯著被害 (津居山港沖合 (北但馬地震))

二十三日十一時十四分	稍顯著	〃	〃	一三四・七 三五・七
二十三日十二時二分	〃	〃	〃	一三四・七 三五・七
二十三日二十三時四十四分	〃	千葉	〃	一三九・七 一三五・三
二十四日十時二十四分	〃	花蓮港附近	〃	一一一・四 二三・七
二十四日十二時五十二分	〃	豊後水道	〃	一三二・一 一三三・四
二十四日十九時五十五分	〃	津居山港沖	〃	一三四・七 三五・七
二十六日八時四十二分	〃	〃	〃	一三四・七 三五・七
二十六日一時二十二分	〃	〃	〃	一三四・七 三五・七
二十七日十一時三十分	顯著	能登西方沖合	〃	一三五・一 三七・〇

圓山川沿岸及津居山港沿岸の小區域には被害激甚にして豊岡町は震域の外、津居山・田結の諸部落も燒失せり、死者四百四十一名、傷者七百二十五名を數せり、豊岡町烈震にして徳島・京都・多度津・八木・洲本・和歌山・大阪・神戸は強震(弱き方)なり、津・岡山・彦根・福井・濱田・敦賀・吳・松田・飯田・甲府は弱震なり、而して震域は東方は東京・新潟に及び西方は佐賀に及び、

餘震なり、

餘震、豊岡にては強震なり、

關東一圓に亘り布良及甲府は弱震にして横濱・東京・岐阜は弱震(弱き方)なり、

宮崎・高知は弱震(弱き方)なり震域は九州及四國に亘れり、

津居山地震の餘震、

同上餘震、

同上餘震中の大なるものなり、

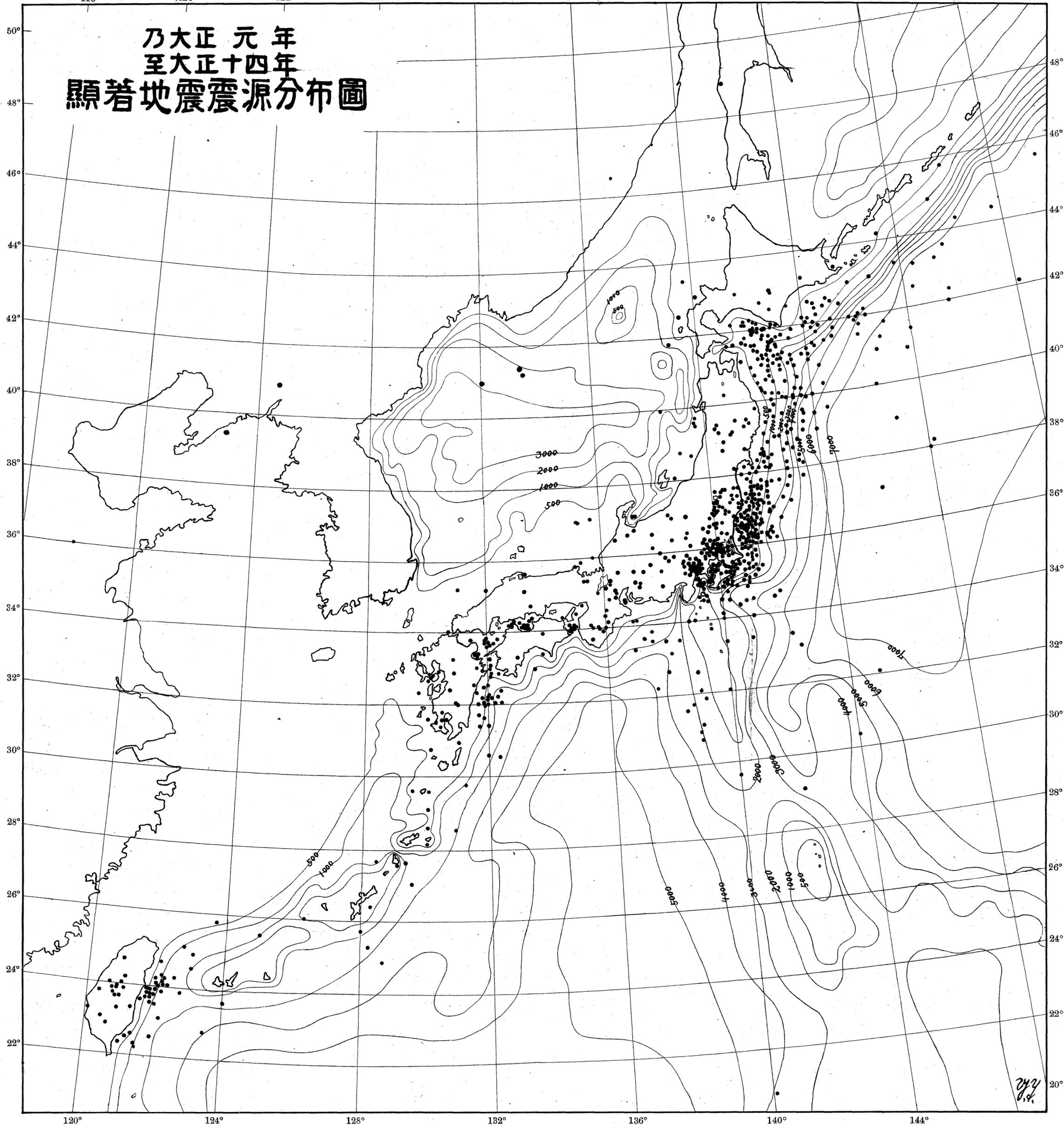
二十三日の津居山地震の餘震を考へらるゝものにして震源海中にあれども相當大規模のものなり、

大正十四年					
七月二十六日	二十一時四十五分	稍顯著	福島小名濱附近	一四一・〇 三六・九	<p>少被害あり、 岐阜は強震(弱き方)にして名古屋・濱松・彦根は弱震、津・京都・甲府・豊岡・八木・福井は弱震(弱き方)なり、 震域は東北地方及び關東一帯に亘れり而して宇都宮は弱震、熊谷は弱震(弱き方)なり、 石巻にては弱震(弱き方)にして陸前及陸中に感覺せり、 震域關東一帯にして熊谷は弱震なり、 盛岡・水戸・東京にて微震を感ず、 關西一帯に感ぜり、名古屋弱震にして津・岐阜・福井・八木・彦根は弱震(弱き方)なり、 小名濱にて弱震を感ぜり、 水澤・宮古・盛岡・水戸・筑波にて微震を感ぜり、 北海道の大部分及東北地方に感ぜり、札幌・帯廣は弱震なり、 例により異常震域をなして水戸・宇都宮・小名濱にて微震を感ぜり、 關東一帯に感ぜり熊谷及宇都宮は弱震(弱き方)なり、 震域關東一帯及沼津に感ぜり、銚子にて弱震(弱き方)なり、 東北地方一帯及沼津に感ぜり、宮古・水澤弱震(弱き方)なり、</p>
二十九日	時四十九分	〃	金華山沖	一四一・七 三八・四	
八月七日	時五十三分	〃	江戸川上流	一三九・七 三六・一	
十一日	時四十分	〃	鹽屋崎附近	一四一・一 三七・二	
十九日	時五十一分	顯著	三重縣龜山附近	一三六・四 三四・九	
九月一日	時四十五分	稍顯著	磐城東方	一四二・九 三七・〇	
二日	時五十八分	〃	金華山沖	一四二・一 三八・二	
二十一日	時五十六分	〃	鹽屋岬沖	一四一・三 三六・六	
十月五日	時八分	〃	襟裳岬南西沖	一四二・六 四一・七	
二十日	時四十二分	顯著	八丈南方島沖	一四〇・〇 二九・五	
十一月六日	時四十二分	稍顯著	土浦附近	一四〇・二 三六・一	
七日	時十三分	〃	銚子沖	一四一・〇 三六・〇	
十日	時四十四分	〃	宮古東方沖	一四三・七 三九・六	

十二月五日	十二月八日	十二月十日	十二月十一日	十二月十二日	十二月十三日
〇時二十九分	〇時	〇時	〇時	〇時	〇時
時二十九分	時〇分	時〇分	時〇分	時〇分	時〇分
稍顯著	稍顯著	稍顯著	稍顯著	稍顯著	稍顯著
襟裳岬沖	經ヶ崎沖合	出羽國庄内附近	淀川上流	高槻川上流	鬼怒川上流
東郷川上流	六郷川上流	江戸川上流	一三九・九	一三五・八	一四〇・一
一三九・四	一三五・七	一三五・八	一三五・九	一四〇・二	一四〇・四
震域關東一帯にして横濱・横須賀・東京にては弱震(弱き方)なり、	震域關東一帯にして横濱・横須賀・東京にては弱震(弱き方)なり、	震域關東一帯及東北地方に亘りて横濱・横須賀・東京にては弱震、熊谷・布良・宇都宮は弱震(弱き方)なり、	關東地方及び之れに隣接諸縣に感じたり震央附近強震なり、	筑波・宇都宮・水戸に微震なり福島縣白河にては弱震(弱き方)なり、	中國・四國・京畿地方に感ぜり、豊岡は強震(弱き方)にして、弱震(弱き方)は福井・敦賀・京都なり、函館・釧路にて微震なり、

116° 120° 124° 128° 132° 136° 140° 144° 148° 152°

乃大正元年
至大正十四年
顯著地震震源分布圖



272
1/2